

浜名湖花博20周年記念事業

基本計画

令和4年（2022年）10月

浜名湖花博20周年記念事業実行委員会

はじめに	…… 2
I 全体計画	…… 3
第1章 全体概要	…… 4
開催の意義・テーマ	
開催概要	
会場図	
開催スケジュール	
第2章 事業方針	……10
事業方針	
第3章 広報宣伝計画	……12
広報宣伝計画	
第4章 資金計画	……14
資金計画	
II 浜名湖ガーデンパーク事業計画	……16
第1章 会場計画	……17
基本方針	
会場テーマ・会場デザインコンセプト・メッセージ	
開催告知ポスター（2022年度版）	
事業展開イメージ	
会場ゾーニング	
会場ゾーニングとエリア設定	
会場エリア構成	
会場全体イメージ	
デジタル等活用計画（DX）	
会場サイン計画	
会場整備方針	
会場整備スケジュール	
第2章 花修景計画	……32
花修景コンセプト	
修景イメージ	
花壇コンクール	
基盤整備・植栽維持管理	
植物調達管理	
第3章 主催者企画事業	……43
基本方針	
公式行事	
主催者企画事業コンテンツ	
主催者企画事業	

第4章 運営計画	……51
基本方針	
入場者管理	
来場者サービス・安全対策	
ボランティア計画	
第5章 情報通信計画	……56
基本方針	
リアルタイム配信	
公式サイト・公式SNS開設	
第6章 輸送計画	……58
基本方針	
会場輸送コンテンツ	
駐車場計画	
交通誘導計画	
実施体制	
III はままつフラワーパーク事業計画	……63
事業の方向性	……64
第1章 会場計画	……65
会場テーマ	
目指す方向性と取組	
基本方針	
会場ゾーニング	
第2章 花修景計画	……70
基本方針	
第3章 主催者企画事業	……72
基本方針	
第4章 運営計画	……76
基本方針	
第5章 輸送計画	……78
基本方針	
第6章 事業推進計画	……80
スケジュール	

本書は、浜名湖花博20周年記念事業の開催に当たり、必要な事業及びその方針について策定した基本計画である。

さて、今から18年前の2004年、浜名湖ガーデンパークにおいて開催された「浜名湖花博（しずおか国際園芸博覧会/第21回全国都市緑化フェア）」は、約545万人の来場者を集め、大いに賑わった。その10年後の2014年、浜名湖花博10周年を記念して、浜名湖ガーデンパーク及びはままつフラワーパークにおいて、「浜名湖花博2014（浜名湖花博10周年記念事業/第31回全国都市緑化しずおかフェア）」が開催され、約130万人の来場者を集めた。

このたび、地元からの要請を受け、浜名湖花博開催20周年を記念して、2024年に「浜名湖花博2024」を開催することとなった。今回は、浜名湖ガーデンパーク、はままつフラワーパークに加え、湖西市を中心とした浜名湖周辺も対象範囲とし、より広範な地域において開催する。

本計画を発行した2022年は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が依然として猛威を振るい、また、ロシアによるウクライナ侵攻とそれに伴う物価の上昇、世界情勢の不安定化等、社会全体が先行きの見えない閉塞感に包まれている。

このような状況の中、第1次岸田内閣が打ち出した「デジタル田園都市国家構想」が、社会変革を促すものとして、大いに期待されている。「デジタル田園都市国家構想」とは、産業の空洞化、交通・物流インフラの衰退、教育機会の減少等に伴う高齢化、過疎化の進行等、地方が抱える諸課題について、デジタル技術の活用により解決を図っていくものである。また、地方からデジタルの実装を進めることで、地方と都市との差を縮め、都市の活力と地方のゆとりを享受できる新たな田園都市、すなわち「デジタル田園都市」の実現についても目指していく。

静岡県においても、国家戦略に呼応し、ポストコロナ時代における県の戦略として、「デジタル田園都市」の実現を掲げ、農業、教育等、あらゆる分野のDX（デジタルトランスフォーメーション）に注力していくこととなった。本事業においては、「デジタル田園都市国家構想」の「人間中心のデジタル社会」が掲げる「心豊かな暮らし（Well-being）」、「持続可能な環境・社会・経済（Sustainability）」、「地域発の産業革新（Innovation）」を戦略の中心に据えることとした。

本事業では、「浜名湖花博」のレガシーを生かした上で、花・緑の普及促進にとどまらず、「デジタル田園都市」の実験場として、県民の皆様や地元企業関係者の皆様の御協力をいただきながら、先端技術を活用した新しい暮らし方の創造を目指し、実施する。

今後は、本事業が本県におけるデジタルの実装、技術革新により社会の変革を促し、混沌とした社会情勢の中で、未来への希望をもたらすものとなるよう、本計画の具体化に努めていく。

I

全体計画

第1章

全体概要

開催の意義

ガーデンシティ
「デジタル田園都市」の実現
～技術、サービスの実証モデル～

都市の活力と田園の持つ豊かさに、デジタルを融合させた「デジタル田園都市」のロールモデルを提示することで、誰もが憧れる美しくゆとりのある暮らしと環境を創出する。

- ▶ 「地域循環共生圏」の形成
地域の多様な資源を生かし、ガストロノミーツーリズムの推進、水産資源の回復、農福連携の推進等により、新たな地域循環を生み出していく。
- ▶ 魅力ある暮らしの実現
DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進や、食と花の都づくりを通じ、魅力ある暮らしの実現を図る。
- ▶ 地域の魅力向上と発信
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを生かしたサイクルスポーツの聖地づくりや、自然公園等の適切な管理により、地域の魅力向上と発信を図る。
- ▶ 富を作る産業の展開
スマート農業や、次世代自動車開発、カーボンニュートラル等、先端技術を活用し、次世代を見据えた取組を推進することにより、富を作る産業の展開を図る。
- ▶ 多彩な交流の拡大
ガーデンツーリズム、多文化共生、インクルーシブ社会への取組の推進等により、多彩な交流の拡大を図る。

テーマ

人・自然・テクノロジーの架け橋
ガーデンシティ
～レイクハマナ デジタル田園都市～

- ▶ 都市の活力と豊かな自然を併せ持つ庄内半島において、2004年（平成16年）に開催された浜名湖花博のレガシーを引き継ぎ、人・自然・テクノロジーをつなぐことにより、環境と調和し、持続可能な社会を前提とした、新たな暮らしを創造する「デジタル田園都市」の具現化を目指す。
- ▶ 花・緑にあふれた環境と先端技術との融合による「心豊かな暮らし(Well-being)」、「持続可能な環境・社会・経済(Sustainability)」、「地域発の産業革新(Innovation)」を体感できる実験場を目指す。

開催概要

▶ 主催

浜名湖花博20周年記念事業実行委員会

名誉顧問	スズキ株式会社相談役	鈴木修
会長	静岡県知事	川勝平太
副会長	浜松市長	鈴木康友
副会長	湖西市市長	影山剛士

▶ 会期

全期間：2024年（令和6年）3月23日（土）から6月16日（日）（86日間）

※浜名湖ガーデンパーク

2024年（令和6年）4月6日（土）から6月2日（日）（58日間）

▶ 入場料

未定

※現時点では、事業内容に未確定の部分が多いため、実施計画策定時までに検討することとする。

▶ 拠点会場

[浜名湖ガーデンパーク（住所：浜松市西区村櫛町5475-1）]

庄内半島の最南端、弁天島の対岸に位置し、2004年浜名湖花博開催のために整備。浜名湖花博終了後は、静岡県が都市公園として再整備。
総面積56ha

[はままつフラワーパーク（住所：浜松市西区館山寺町195）]

庄内半島の入口、館山寺温泉に位置し、1970年浜松市制施行60周年事業の一環として浜松市が整備。浜松市動物園に隣接。
総面積30ha

▶ 集客目標

浜名湖ガーデンパーク 50万人から55万人

はままつフラワーパーク 40万人

計 90万人から95万人

全体位置図

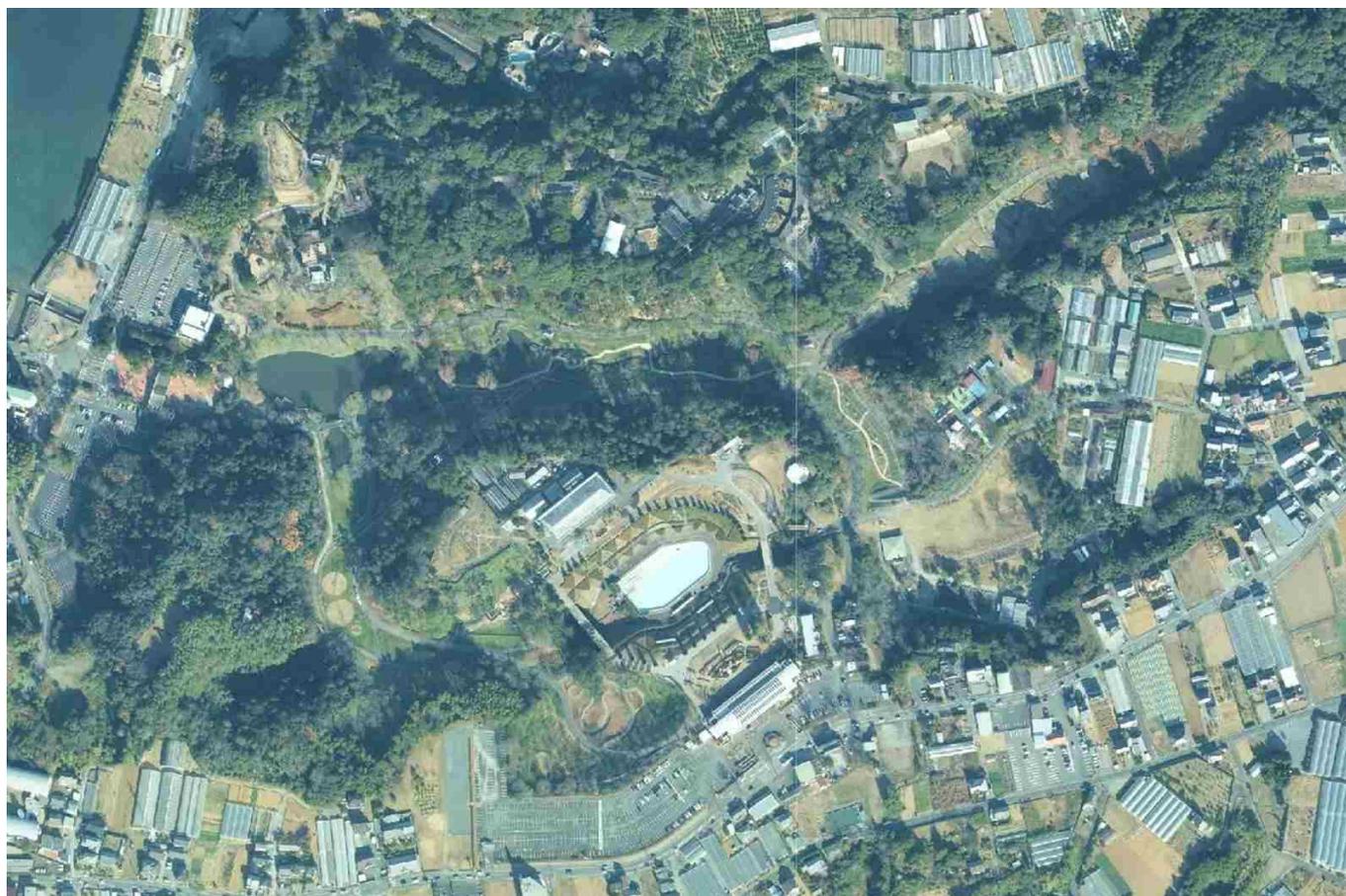


■ 拠点会場

▶ 浜名湖ガーデンパーク



▶ はまつフラワーパーク



開催スケジュール

浜名湖花博20周年記念事業 基本計画

2024年3月		①浜名湖ガーデンパーク	②はままつフラワーパーク
1	金		
2	土		
3	日		
4	月		
5	火		
6	水		
7	木		
8	金		
9	土		
10	日		
11	月		
12	火		
13	水		
14	木		
15	金		
16	土		
17	日		
18	月		
19	火		
20	祝・水		
21	木		
22	金	内覧会	
23	土	浜名湖花博2024開会式	
24	日		
25	月		
26	火		
27	水		
28	木		
29	金		
30	土		
31	日		

2024年4月		①浜名湖ガーデンパーク	②はままつフラワーパーク
1	月		
2	火		
3	水		
4	木		
5	金	内覧会	
6	土	開場セレモニー	
7	日		
8	月		
9	火		
10	水		
11	木		
12	金		
13	土		
14	日		
15	月		
16	火		
17	水		
18	木		
19	金		
20	土		
21	日		
22	月		
23	火		
24	水		
25	木		
26	金		
27	土		
28	日		
29	祝・月		
30	火		

2024年5月		①浜名湖ガーデンパーク	②はままつフラワーパーク
1	水		
2	木		
3	祝・金		
4	祝・土		
5	祝・日		
6	振・月		
7	火		
8	水		
9	木		
10	金		
11	土		
12	日		
13	月		
14	火		
15	水		
16	木		
17	金		
18	土		
19	日		
20	月		
21	火		
22	水		
23	木		
24	金		
25	土		
26	日		
27	月		
28	火		
29	水		
30	木		
31	金		

2024年6月		①浜名湖ガーデンパーク	②はままつフラワーパーク
1	土		
2	日	閉会式 (58日間)	
3	月		
4	火		
5	水		
6	木		
7	金		
8	土		
9	日		
10	月		
11	火		
12	水		
13	木		
14	金		
15	土		
16	日		閉会式 (86日間)
17	月		
18	火		
19	水		
20	木		
21	金		
22	土		
23	日		
24	月		
25	火		
26	水		
27	木		
28	金		
29	土		
30	日		

第2章

事業方針

事業方針

多様な人材、団体等の参加・連携による事業展開

本事業のテーマの実現に向けて、自治体、企業・事業者、教育・研究機関、県民、NPO等、地域の多様な人材、団体等の積極的な参加を促し、連携を図りながら事業を推進する。

▶ 事業展開

実施主体である浜名湖花博20周年記念事業実行委員会（以下、「実行委員会」という。）事務局は、静岡県経済産業部農芸振興課内におく。また、実行委員会の中に、県部会及び市部会を設ける。

原則として、浜名湖ガーデンパークで実施する事業については県部会が、はままつフラワーパークで実施する事業については市部会（浜松市）が、湖西市で実施する事業については市部会（湖西市）が、企画・運営・実施を主体的に行う。

▶ 広報宣伝

広報宣伝については、浜名湖ガーデンパーク、はままつフラワーパーク及び浜名湖周辺地域を一体的に行うことにより、効率的・効果的な事業展開を図ることができることから、浜名湖花博20周年記念事業実行委員会が、企画・運営・実施を主体的に行う。

▶ 参画機会の提供

地域の意見・要望を積極的に聴取し、本事業の計画に反映させる。

事業の準備期間、実施期間等、さまざまな段階を通じて、地域の多様な人材、団体が本事業に参画できるよう事業を計画する。

▶ 新たなコミュニティの創出

本事業の関係者のみならず、来場者についても、本事業で実施する行催事やコンテンツへの参加を通じて、新たな体験に基づく気づきを促す。また、多様な人材との交流を通じて、新たなコミュニティの創出を図る。

スケジュール

▶ 2022年

10月 第2回浜名湖花博20周年記念事業実行委員会

▶ 2023年

4月 第3回浜名湖花博20周年記念事業実行委員会

広報宣伝活動開始

9月 チケット販売開始

▶ 2024年

1月 第4回浜名湖花博20周年記念事業実行委員会

3月23日（土）～6月16日（日） 「浜名湖花博2024」はままつフラワーパーク会場

4月6日（土）～6月2日（日） 「浜名湖花博2024」浜名湖ガーデンパーク会場

9月 第5回浜名湖花博20周年記念事業実行委員会

第3章

広報宣伝計画

基本方針

本事業実施の意義の認知、集客目標の達成に向け、ターゲットに応じ、最も効果的な媒体・手法・施策により実施

- ▶ 本事業の意義をより多くの人々に理解していただき、参加いただくために、重点地域を核とした広報宣伝を展開する。
- ▶ ターゲットを明確に絞り込み、最も効果が期待できる媒体・手法・施策を活用することで、デジタル（WEB）広報の可能性を拡張、具現化する。
- ▶ 広報宣伝活動のプラットフォームでもある公式ホームページを早期に立ち上げ、1年にわたる広報宣伝活動を効率的かつ効果的に実施する。

2024年浜名湖花博20周年記念事業「浜名湖花博2024」

事業テーマ

人・自然・テクノロジーの架け橋
～レイクハマナ デジタル^{ガーデンシティ}田園都市～



浜名湖ガーデンパーク50万から55万人、はままつフラワーパーク40万人、合計90万人から95万人の集客目標の達成

ターゲット

第1区分	第2区分	第3区分
年代・単位		
40代～70代 個人、小グループ	20代～40代 個人、小グループ ファミリー層 個人、ファミリー	20代～30代 個人、小グループ
属性		
ガーデニング愛好者 旅行愛好者	SNS愛好者 カップル・若者グループ ファミリー	デジタルイベント愛好者
主要な媒体・手法		
新聞、TV、雑誌	SNS、TV、情報誌	SNS、雑誌



エリア

圏域：静岡県全域及び愛知県東部
600万人
重点地域：静岡県西部及び愛知県東三河地域
205.8万人



第4章

資金計画

資金計画

現時点では、事業内容が未確定のため、令和4年度分についてのみ記載する。なお、全体の資金計画については、実施計画策定時までに検討することとする。

▶ 収入

[令和4年(2022年)度]

(単位：千円)

区分	概要	共通経費	浜名湖ガーデン パーク事業費	はままつフラワー パーク事業費	計
負担金	静岡県負担金	950	19,000	0	19,950
	浜松市負担金	950	0	9,161	10,111
	計	1,900	19,000	9,161	30,061
受託料	静岡県委託料	0	25,000	0	25,000
合計		1,900	44,000	9,161	55,061

▶ 支出

[令和4年(2022年)度]

(単位：千円)

区分	概要	共通経費	浜名湖ガーデン パーク経費	はままつフラワー パーク経費	計
事務費	事務局運営	100	200	0	300
計画策定費	基本計画策定	0	3,000	511	3,511
	実施計画策定	1,400	15,000	6,950	23,350
	計	1,400	18,000	7,461	26,861
広報宣伝費	シンボルマーク等制作	400	800	1,700	2,900
基盤整備費	公園整備	0	25,000	0	25,000
合計		1,900	44,000	9,161	55,061

Ⅱ

浜名湖ガーデンパーク事業計画



第1章

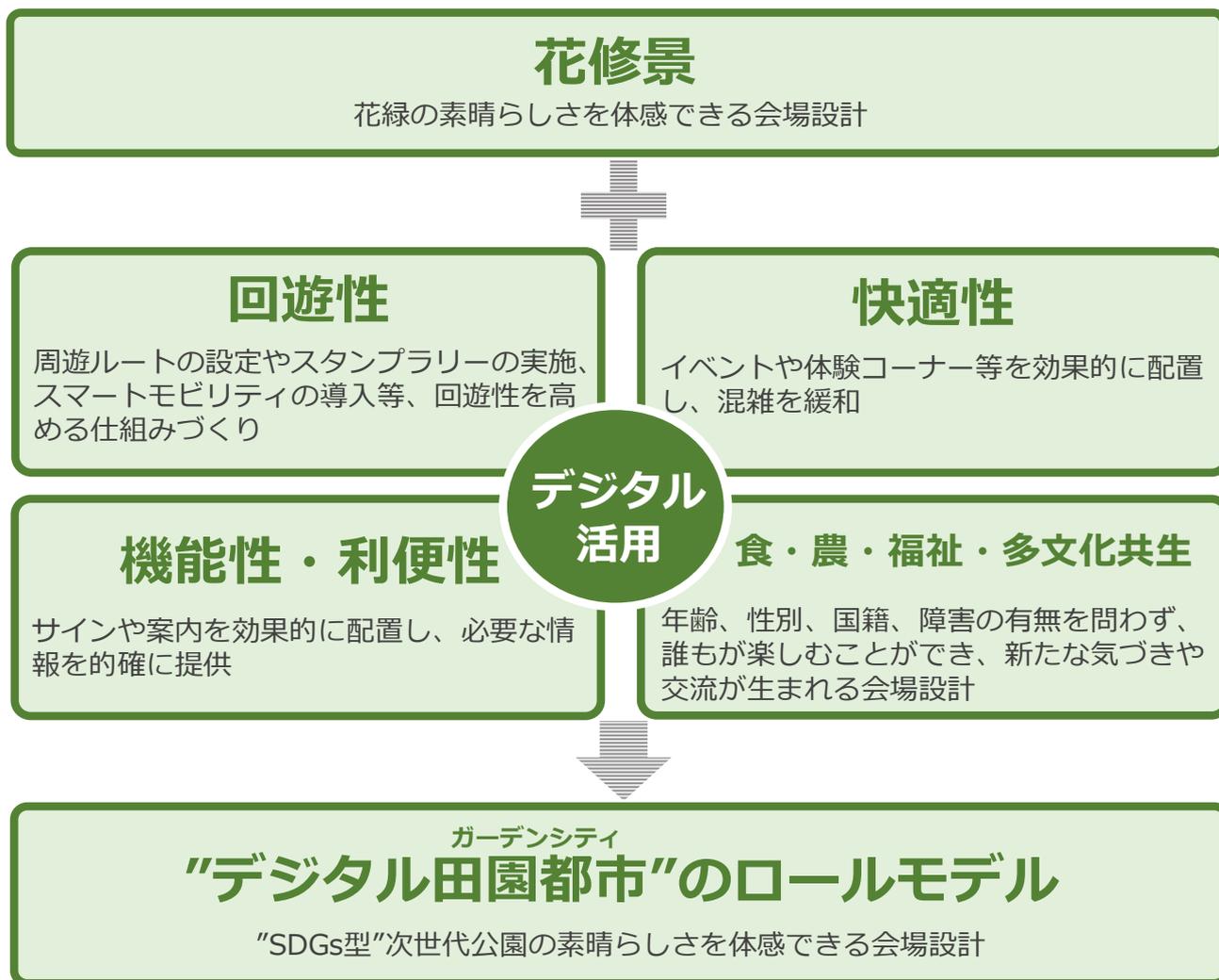
会場計画

基本方針

花緑を中心とした新たな都市公園の創造
～既存のランドスケープを生かした持続可能な公園づくり～

2004年に開催された浜名湖花博のレガシーである魅力的なランドスケープを生かした上で、本事業のテーマが明確となるようなエリア設定を行う。

- ▶ **基盤整備**
浜名湖花博開催から18年が経過し、経年劣化が著しいことから、来場者が安全かつ快適に会場できるように改修工事等、基盤整備を行う。
- ▶ **ランドスケープ**
既存のランドスケープを生かしつつ、「持続可能な公園づくり」をコンセプトに、本事業終了後も適正な維持管理が行われるよう花修景による整備を行う。
- ▶ **デジタルガーデンパーク**
デジタル環境が整っていない浜名湖ガーデンパークにおいて、5Gに対応した環境整備を図り、デジタル技術を活用した来場者管理、行催事、渋滞対策等を行う。
- ▶ **スマートモビリティの導入**
公園内の移動を容易にするため、園内でスマートモビリティの積極的な導入を図る。
- ▶ **回遊性の向上**
園内の各エリアを効率的に回遊できるようサイン、デジタルツール等を活用。



会場テーマ

Sustainable Garden Village

本事業のテーマである「人・自然・テクノロジーの架け橋～レイクハマナ ^{ガーデンシティ} デジタル田園都市～」の具現化のため、自然豊かな環境の中で、最新技術のもたらす利便性や楽しさを享受できる暮らしをイメージできる「まち」を創造する。

会場デザインコンセプト

人・自然・テクノロジーの融合による“SDGs型”次世代公園の創造

メッセージ

未来のじぶん・まちのとびらを拓こう

▶ 体感

豊かな緑、多様な動植物、水辺等、浜名湖ガーデンパークの持つ潜在的価値である「癒やし」や「やすらぎ」と、そこから得られる心豊かな暮らしが、日々の生活や社会全体にもたらす活力を体感する。

▶ 発見

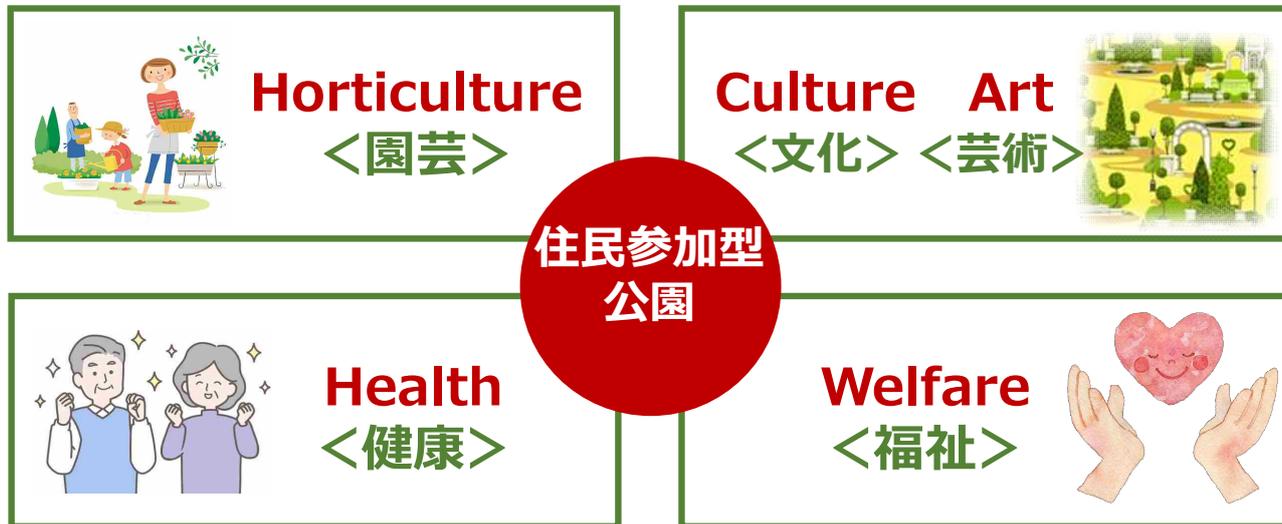
デジタルの活用により、少し先の未来の暮らしや社会活動が、どのように豊かに、快適になるのかを実体験し、今後、デジタルが社会にどのような変化をもたらすのか、デジタルで何ができるようになるのか、その可能性を発見する。

▶ チャレンジ

デジタルがもたらす新しい暮らしを社会変革のチャンスと捉え、未来へのチャレンジの第一歩を踏み出す。

<【浜名湖花博2024】会場デザインコンセプト>

「Horticulture」「Culture」「Art」「Health」「Welfare」
住民参加型公園



浜名湖花博2024

～人・自然・テクノロジーの融合による
“SDGs型”次世代公園の創造～



好奇心を刺激する「感動」

豊かな自然による「癒やし」

交流から生まれる「発見」



2024年春
浜名湖花博

20周年記念事業開催



会場



HAMANAKO GARDEN PARK

浜名湖ガーデンパーク

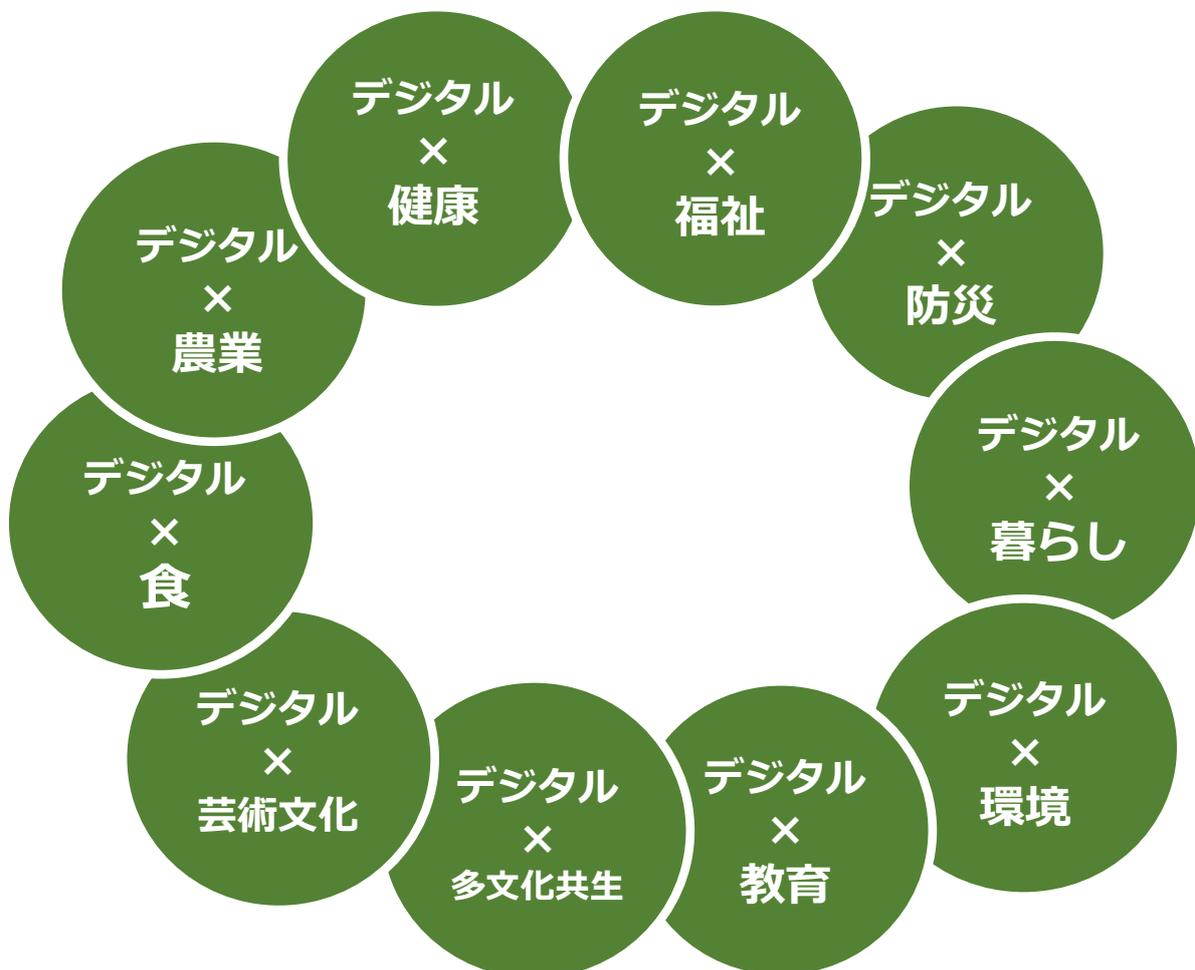


©のたろ

事業展開イメージ

花緑を核とした持続可能な都市公園の提示
デジタル技術を活用したサービスや暮らし、社会活動の実証モデルの提示

- ▶ 浜名湖ガーデンパークを核とした人づくり・まちづくり
豊かな自然や食材、多彩な農産物、最先端のテクノロジー、多様な人材との共生を体験や交流により、知る・学ぶ・考える場とする。
- ▶ 新たなグリーンインフラ・ソリューションの構築
公園や農業（施設園芸）がデジタルの活用により、更に身近なものとなり、社会変革への新たな可能性について気づく“きっかけづくり”の場とする。
- ▶ イノベーションの促進による地方創生・地域活力の増進
浜名湖ガーデンパークから生まれる人とのつながりや新たなアイデア、生きがい等を通じて、地域の活力が生み出される場とする。
- ▶ 産官学連携による事業構成
行政、企業、教育機関、県民のそれぞれが基本理念を理解し、豊かな暮らしや快適な社会の実現に向けて、意識を高め、実施する契機となるような場とする。



会場ゾーニング

浜名湖ガーデンパークの既存レイアウトを活かし、園内全体を3ゾーンでゾーニング。入場ゲートを北側入口、退場ゲートを南側入口に設定することにより、来場者の観覧動線ルート的一方通行化を促し、入場ゲートの混雑緩和を図る。

浜名湖花博2024 浜名湖ガーデンパーク会場

ウェルカムゾーン
(無料ゾーン)

共創ゾーン
(有料ゾーン)

自然との共存ゾーン
(有料ゾーン)

緑地広場エリア

参加・交流・体験エリア

スマート農業推進エリア

人と自然の共生エリア

国際庭園エリア

アクティビティエリア

花の美術館エリア

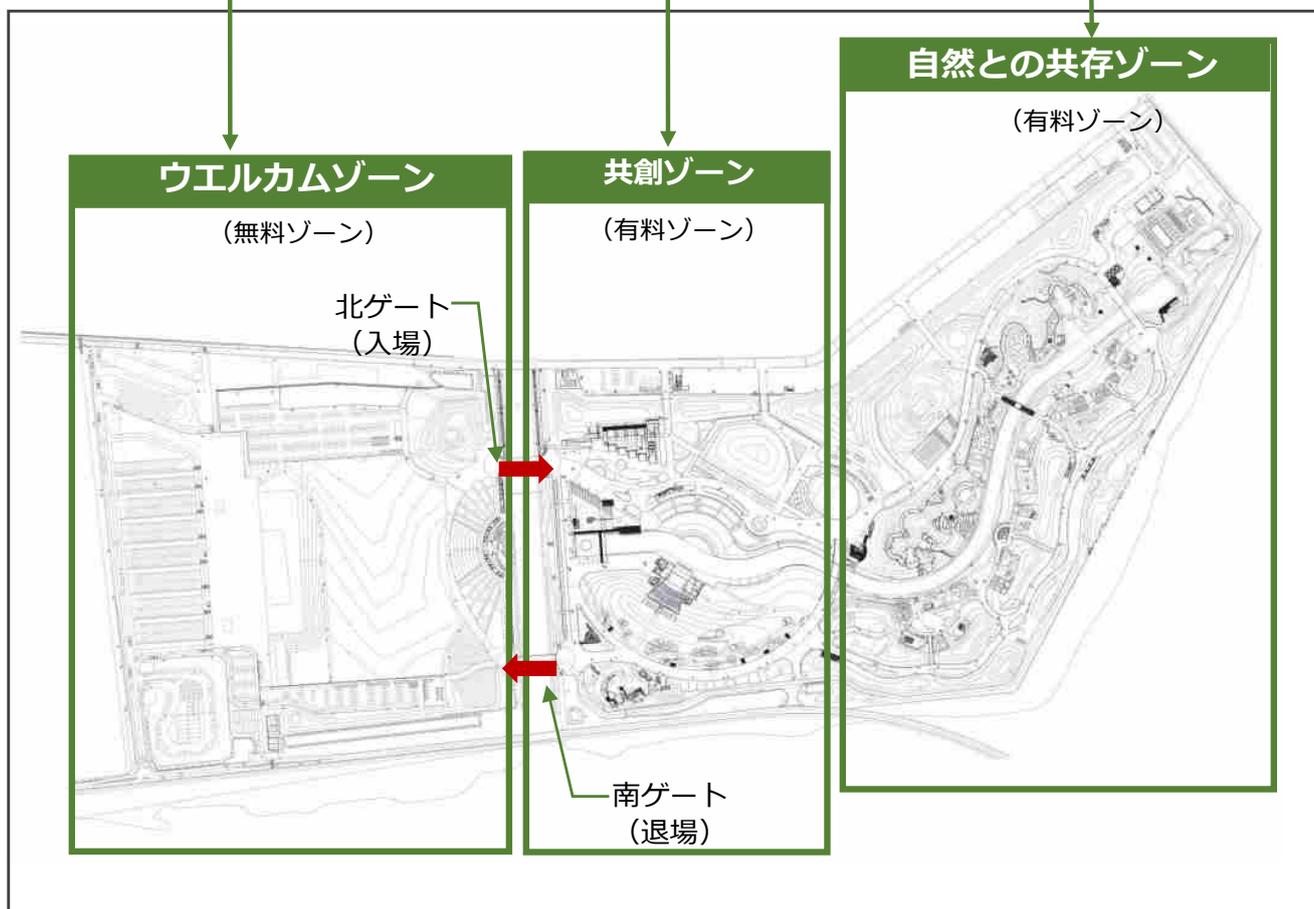
ウェルカムゾーン
(無料ゾーン)

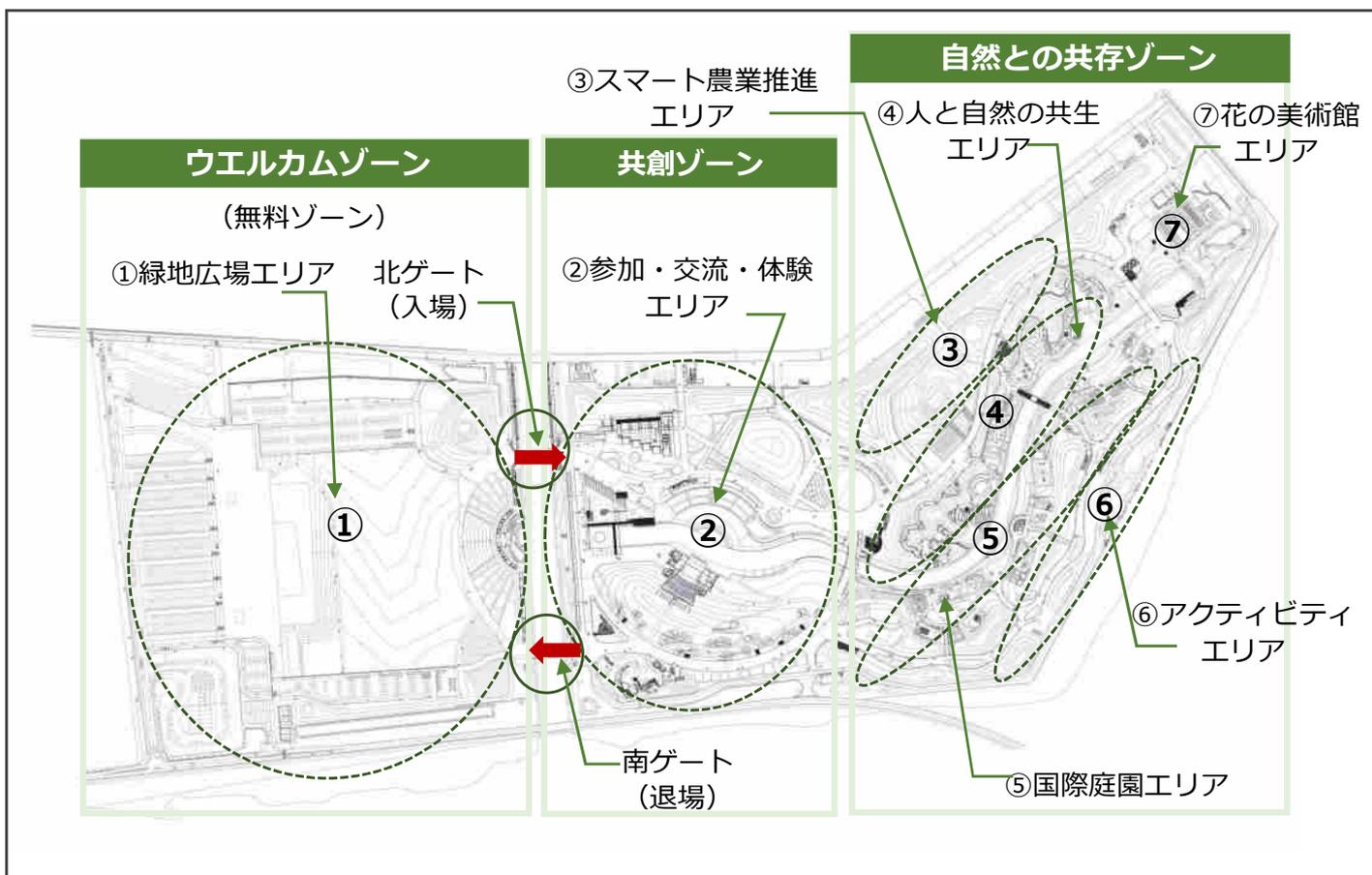
共創ゾーン
(有料ゾーン)

自然との共存ゾーン
(有料ゾーン)

北ゲート
(入場)

南ゲート
(退場)

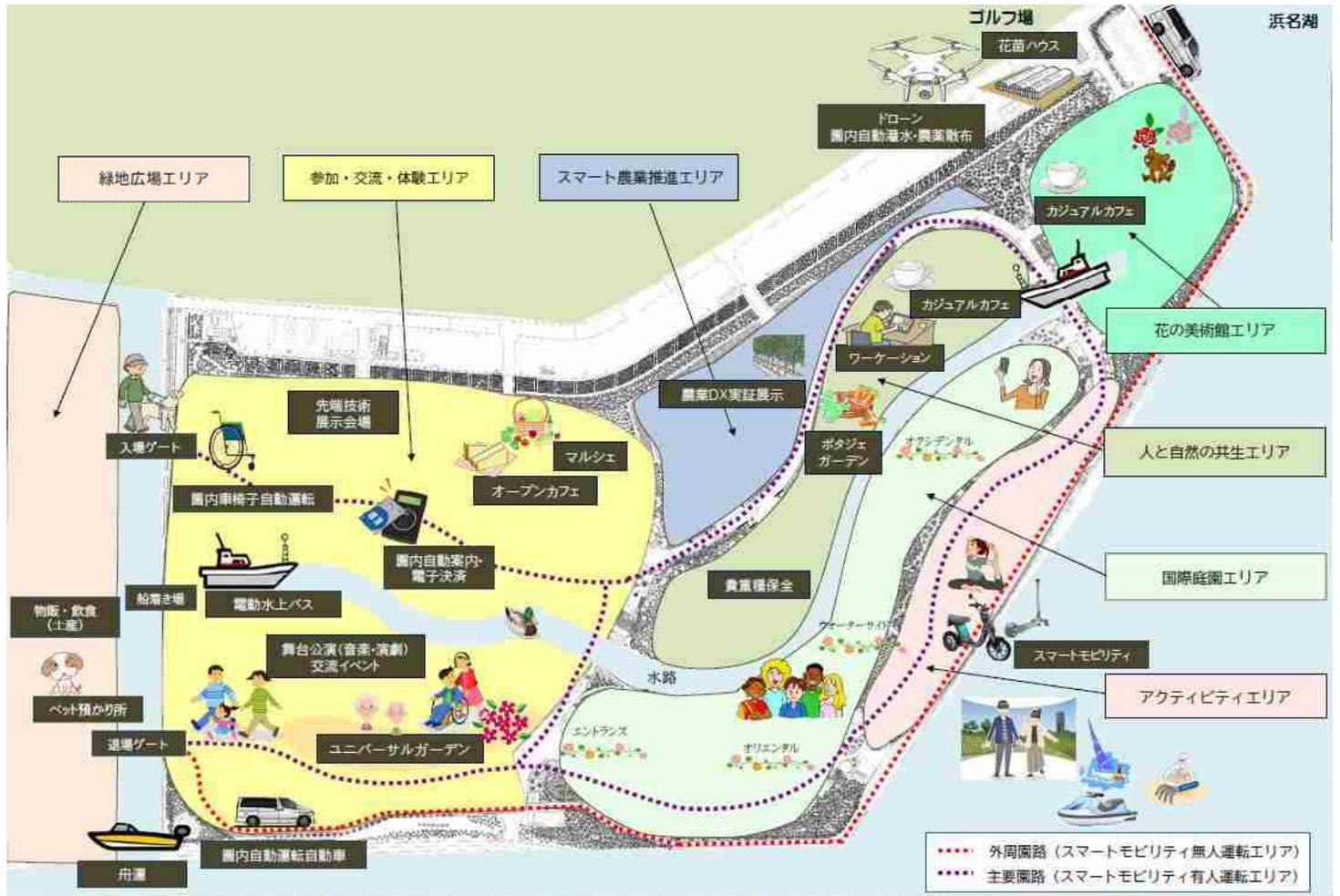




ゾーン	エリア	エリアコンセプト
ウェルカムゾーン (無料ゾーン)	①緑地広場エリア	世代を超えて楽しめる公園 「新たな交流の創出」
共創ゾーン	②参加・交流・体験 エリア	人・自然・地域とのつながり 「地域とアートの共鳴」 「高齢者・障害者等の社会参加促進」
自然との共存 ゾーン	③スマート農業推進 エリア	新技術がもたらす農業革新 「農業DXの促進」
	④人と自然の共生 エリア	自然との調和・共存 「多様な植物・貴重種の保全」 「農のある暮らしの提案」 「新たな暮らしの創造」
	⑤国際庭園エリア	多様な価値観が織りなす多彩な文化 への共感 「多文化共生の実現」 「国際色豊かな庭園」
	⑥アクティビティ エリア	豊かな自然の中で健康づくり 「多彩なレクリエーションの提供」
	⑦花の美術館エリア	国内最高峰の印象派庭園 「花・食による癒やし空間の創出」

エリア	既存施設名称	概要
①緑地広場エリア	南駐車場・北駐車場・南駐車場 団体バス駐車場	来場者駐車場 シャトルバス発着場 (団体バス駐車場)
	北案内所 南案内所	来場者案内所 (既存) (車椅子貸出)
	緑地広場	ペット預かり所 オープンカフェ (既存) 物販ブース
	北エポ橋前	当日チケット販売所 北ゲート (会場入口) 喫煙所
	南エポ橋前	南ゲート (会場出口) 喫煙所
②参加・交流・体験 エリア	体験学習館	企業出展 救護所・授乳室 (既存)
	体験学習館前広場	自動運転車椅子貸出 (北ゲート)
	屋外ステージ	舞台公演、交流イベント、ジュニア・プロコン
	中央芝生広場	企業出展 (先端技術の展示) 県民参加イベント
	イベント広場	ガーデンカフェ (特設) マルシェ
	舟運	海上輸送入場ゲート 浜名湖水路巡りクルーズ
	西船着き場	水上バス運行
	こども広場	既存設備
	食事処「のたね」	飲食施設 (既存施設)
	食事処「のたね」前広場	園内自動運転バスのりば 車椅子自動運転貸出 (南ゲート)

エリア	施設名称	概要
②参加・交流・体験 エリア	ふれあい花壇 ユニバーサル花壇	県民花壇 ユニバーサルガーデン
	展望塔	既存施設
	案内所	来場者案内（既存）
③スマート農業推進 エリア	花木園	スマート農業実装
	徳川園芸館	デジタルアート展示体験
④人と自然の共生 エリア	里の家	ワーケーション提案 ガーデンカフェ（特設） ポタジェガーデン
	百華園	貴重種保全花壇
⑤国際庭園エリア	国際庭園	国際庭園 多文化共生イベント 花壇コンクール
⑥アクティビティエリ ア	主要園路	スマートモビリティ体験
	園内（外周・主要園路）	スマートモビリティ実装 ・外周園路：無人運転 ・主要園路：有人運転
⑦花の美術館エリア	花の美術館隣接スペース	ガーデンカフェ（特設）
	花の美術館1F	デジタルアート展示体験



基本方針

来場者に「人に優しく、便利な」デジタル化を体感していただくための環境を構築

デジタル活用コンテンツ	概要
入場チケット発券システム （チケットレス入場）	オンラインを活用した電子チケット販売システムを導入 ※紙の入場チケット（QRコード対応）も別途、発券
来場者管理システム	AIカメラによる来場者認証システムを導入 来場者の性別、年齢、来場時間等をAIデータで集約し、会期中及び開催事後データとして活用
GPS連動AR会場案内	GPSと連動した園内案内サービスを導入 AR技術を活用し、キャラクターを活用した案内用動画コンテンツを制作
スマートモビリティ 自動運転	次世代スマートモビリティの試乗体験 園内を循環する自動運転自動車運行等、来園者が実際に自動運転を体験する機会を創出
ワーケーション	既存施設（里の家）内に公衆無線LAN（Free Wi-Fi Spot）を設置し、来園者にワーケーション体験機会を提供
デジタルアート （常設施設演出）	既存施設（徳川園芸館）内を体感型デジタルアート空間として活用
モバイルオーダーシステム （フード）	コンセプトガーデンカフェの注文時に、QRコードを活用したモバイルオーダーシステムを導入
ARデジタルスタンプラリー	園内に設定するチェックポイントを巡って、デジタルスタンプを集めながら楽しく回遊する仕組みを提供
県内テック企業製品の 展示・体験	最先端技術のデジタル関連機器の展示・体験
バーチャルガーデンパーク	WEB上でのメタバース空間を提供し、リアルとバーチャルの2方向により、「浜名湖花博2024」に参加出来る仕組みを提供

基本方針

視認性、デザイン性、ユニバーサルデザイン、安全性に配慮したサイン

- ▶ 情報が的確に入手でき、目的の施設等までスムーズに移動できるよう、来場者の誰が見ても分かりやすいものとする。
- ▶ 景観や周辺環境との調和に配慮し、不要な機能や装飾を排除したシンプルなデザインとする。
- ▶ 使用する文字の色や大きさは、ユニバーサルデザインに配慮し、矢印やピクトグラムを活用する。
- ▶ サインは、会期中の安全性が確保でき、維持管理がしやすい構造とする。

視認性

分かりやすさ
見やすさ

デザイン性

景観に配慮
良好な景観の創出

ユニバーサル
デザイン

分かりやすい矢印・
ピクトグラム・書体

安全性

安全性
維持管理

サイン設置の考え方

種類	設置場所	設置内容	備考
起点サイン	会場入口付近 トイレ付近	園内マップ 誘導表示 サイネージ	既存サインの有効活用
拠点サイン	主要の分岐点	園内マップ 誘導表示 サイネージ	既存サインの有効活用
誘導サイン	園内動線 分岐点等	誘導表示	エリアや施設等の誘導 に必要な箇所に設置
名称サイン	各園内施設入口	施設名称 ※既存の名称を使用予 定	施設へ誘引 既存サインの有効活用

ピクトグラムサインデザイン参考例



基本方針

短期間の会期（58日間）に対応した効率的な会場整備
～ゾーニング計画に基づく施設等の配置、既存施設や既存サイン等の有効活用～

▶ 建築物

新たな建物を建築せず、コンテナハウス等の仮設物設置で対応

[コンテナハウス（仮設）]

- ・ 総合案内所、入場券販売所、催事センター、ボランティア控室、駐車場料金所等

▶ 設備関係

既存施設の設備が活用できる場合は、既存施設を活用し、既存施設が活用できない場合の対応は、次のとおり。

[給排水]

- ・ 給水：最寄りの給水栓から配水を行い対応
- ・ 排水：近くの下水管まで管を接続し、ポンプを用いて排水

※下水管接続前に油分を取り除くためにグリーストラップを設置

[電気]

- ・ 浜名湖ガーデンパーク内の変電所、配電盤から配線工事を行い、電気を供給

[通信]

- ・ 園内全域エリアのインターネット環境を確保するため、Free Wi-Fi環境を構築

▶ 休憩施設

[休憩所・ベンチ]

- ・ 既存施設を活用

[ガーデンカフェ（特設）]

- ・ テーブル・椅子の増設

▶ サイン関係

既存サインを有効活用（既存サインの上から新たなサインを被せることで対応）

期間		進行内容
2022年	10月	基本計画
	11月	基本設計
	12月	
2023年	1月	
	2月	
	3月	
	4月	実施計画・広報プロモーション開始
	5月	実施設計
	6月	
	7月	会場建設工事手順調整
	8月	仮設建築物工事手順調整
	9月	
	10月	
	11月	
	12月	
2024年	1月	仮設建設物等整備工事
	2月	運営体制整備、リハーサル
	3月	浜名湖花博2024 開幕（はままつフラワーパーク会場）
	4月	浜名湖花博2024 開幕（浜名湖ガーデンパーク会場）
	5月	浜名湖花博2024 会期
	6月	浜名湖花博2024 閉幕、撤去、現状復旧工事
	7月	現状復旧工事終了

第2章

花修景計画

会場テーマ

Sustainable Garden Village

花修景コンセプト

Reborn 浜名湖ガーデンパーク

浜名湖ガーデンパークは、2004年の開園時、浜名湖や園内の水辺空間を生かした美しい景観、浜名湖畔の環境圧に適した植栽、環境に配慮した舗装等、国内外の都市公園をリードする素晴らしいランドスケープが形成された。

「浜名湖花博」から20年近く経過した今日、時代に即した形で、持続可能な公園に生まれ変わらせるべく、既存のランドスケープのレガシーは生かしつつ、新しい魅力や価値を付加させた公園へと再生（Reborn）を図る。



©のたね

トピアリーイメージ

参加・交流・体験エリア

▶修景方針

- ・色彩豊かな花で賑わいを演出するような修景
- ・花を愛でる人々が繋がり、交流を深めることができる機会の提供

▶修景アイデア

①デザインレッスン花壇・クスノキ並木花壇

- ・県民参加型の植栽による、色彩デザインを実際に見て学べる花壇を設置



デザインレッスン花壇イメージ



クスノキ並木花壇イメージ

②ユニバーサルガーデン

- ・年齢、障害の有無に関わらず誰もが花に触れ、花を楽しむことができるエリア
- ・「暮らし」の中に取り入れられることができるガーデニングの新しいアイデアを提案し、気づきや発見が得られるエリア
- ・ベンチ付きの立ち上がり花壇を設置

③ふれあい花壇

- ・花壇オーナーに向けた講習会の開催により、全体的に統一感のある花壇を設置

④花ひろば

- ・ネモフィラと初夏植物の混植により、会期を通じて修景を楽しむことのできるエリア



ユニバーサル花壇イメージ



■ スマート農業推進エリア

▶ 修景方針

- ・ 「参加・交流・体験エリア」から「花の美術館エリア」をつなぐ主動線として、美しい庭園への期待が高まる修景を創出
- ・ 花木園ではロボット、AI、IOT等、先端技術を活用したスマート農業の実証・展示を実施

▶ 修景アイデア

[添景物の設置]

- ・ 近年人気が高まっている多肉植物を基調に、フォトスポットになる添景物を制作



添景物イメージ



事業展開イメージ

人と自然の共生エリア

▶修景方針

- ・現在の百華園が持つ多様な環境特性や地形景観を活かしつつ、エリアコンセプトを再構築し、新たな魅力を感じられる修景
- ・ローメンテナンスで継続的な維持管理が可能な植物を活用

▶修景アイデア

①百華園

- ・ローメンテナンスな品種のバラを主軸とし、テーマ性のある植物群を併せて植栽
- ・低密度管理が可能な植生への植え替えを実施

②ポタジェガーデン

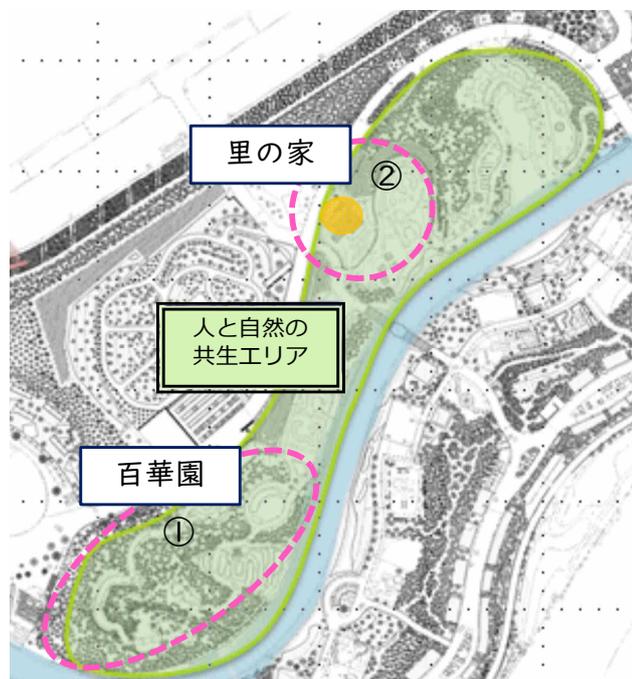
- ・現行花壇の再整備を行った上で、バラやハーブ、野菜等を混植し、収穫の楽しみだけでなく、見た目にも美しい庭園を整備

※ポタジェ (potager)

家庭菜園を意味するフランス語であり、果樹、野菜、ハーブ、草花などを混植した実用と観賞の両目的を兼ね備えた庭



ポタジェガーデンイメージ



■ 国際庭園エリア

▶ 修景方針

- ・ 存置する庭園を活かしつつ、テーマ性のある植栽により、癒しや寛ぎを実感できる修景
- ・ 周辺の林や水辺景観を取り込んだ花壇を配置し、中景・遠景も魅力ある景観の形成

▶ 修景アイデア

4つのエリアに分けて修景

① エントランス

- ・ 国際庭園エリアが新たに生まれ変わることを象徴するような修景

② オリエンタル（東洋風）

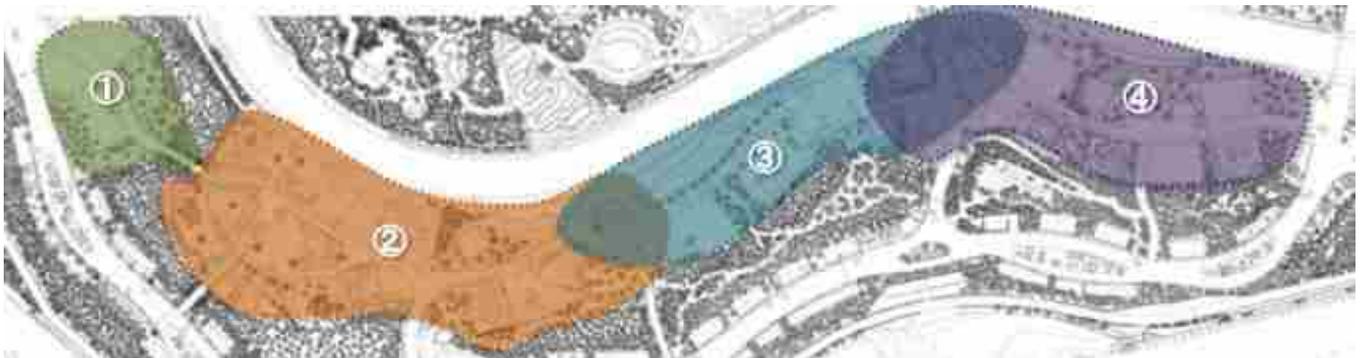
- ・ 中国庭園、韓国庭園を含むエリアであり、東洋の異国情緒が感じられる修景

③ ウォーターサイド

- ・ 水路沿いのエリアであり、水辺景観を取り込んだ花壇を造成
- ・ 造成後の花壇は「花壇コンクール」で使用

④ オクシデンタル（西洋風）

- ・ イギリス庭園、ドイツ庭園等を含むエリアであり、西洋の庭園様式を取り入れた修景



エリアイメージ

▶ 休憩スペース

- ・ 景観を楽しみながら寛げる休憩スペースを配置



休憩スペースイメージ

■ アクティビティエリア

▶ 修景方針

- ・ 浜名湖の景観を活かし、多年草類を中心としたサステナブルかつ自然を感じられる空間として修景
- ・ 球根のばらまき植えや、たねダンゴ®を用いた県民参加型による植栽

▶ 修景アイデア

[県民参加型の植栽]

- ・ 専門家を招いたワークショップを開催し、球根のばらまき植えや、たねダンゴ®を用い、県民参加型による植栽を実施



たねダンゴ®づくりイメージ



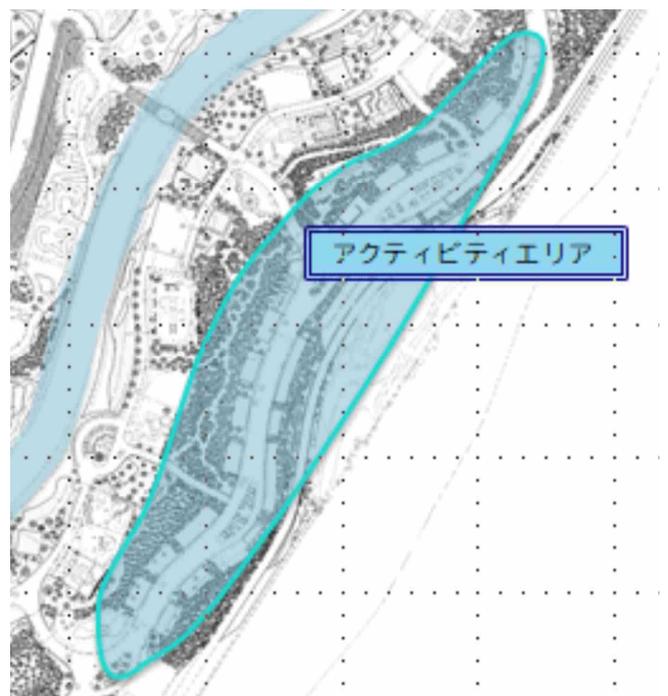
球根ばらまき植えイメージ

▶ 休憩スペース

- ・ 一部植栽をしない場所を設け、花に囲まれた休憩スペースを設置



休憩スペースイメージ



■ 花の美術館エリア

▶ 修景方針

- ・ 花の美術館を中心に、ゆったりと寛げる空間として修景

▶ 修景アイデア

[花の美術館]

- ・ 会期を通じて、変化する情景を楽しむことのできる修景



修景イメージ

▶ 休憩スペース

- ・ 花の美術館前の休憩スペースに植栽を施し、水辺の景観を楽しみながら休める空間を創出



休憩スペースイメージ



花壇コンクールの実施

- ・国際庭園エリアに新規造成する花壇において、国内在住者を対象に花壇コンクールを実施
- ・コンクール終了後も、国際庭園エリアの景観を構成する重要な花壇として活用

部門、テーマ、参加対象者

部 門		テ ー マ	参 加 対 象 者
A部門		初夏の花景色	一般公募、招待者
B部門		春の花景色	一般公募（県民枠あり）、招待者
C部門	C-1	春の花景色	一般公募（県民枠あり）
	C-2	初夏の花景色	一般公募（県民枠あり）

実施スケジュール

部 門	2023年				2024年			
	3月	5月中旬	6月	秋	3月	4月		5月中旬
						中旬	下旬	
A	公募開始	書面審査	参加者決定	植栽	植栽			審査
B				植栽	植栽	審査		
C-1					植栽	審査		
C-2								植栽

国際庭園エリア（花壇造成予定箇所）



■	カテゴリー-A
■	カテゴリー-B
■	カテゴリー-C-1、C-2

■ 基盤整備

▶ 土壌改良

[新規造成花壇]

- ・花博終了後の花壇の修景内容を考慮した上で適切な土壌改良、又は花壇用土の客土を実施
- ・新規造成花壇は原則存置とするが、現状復旧（花壇の撤去）が予定されている場合は、必要最小限の土壌改良を実施

[芝生地や林床]

- ・球根類については、原則、土壌改良を行わないが、多年草類については、必要に応じて土壌改良を実施

▶ 養生

- ・基盤整備のための工事等に伴い移植を必要とする植物については、指定管理者と移植先や、仮移植の方法について調整

▶ 仮設構造物の設置

- ・添景物や大型修景物などの仮設構造物の設置は必要最小限に留め、原則、既存建築物を活用した展示、修景を実施

▶ 原状復旧

- ・原則、添景物や大型修景物などの仮設構造物は撤去
- ・既存建築物へのハンギングバスケットや壁面緑化、立体花壇等については、指定管理者と存置、撤去について協議後、原状復旧の可否を決定



ハンギングバスケットイメージ

■ 植栽維持管理

- ・植栽デザイナー、植栽維持管理者、指定管理者間の連携により、維持管理を実施
- ・花緑ボランティアや来場者に花壇づくり等に関わってもらうことにより、花緑に関する知識や植栽・管理技術向上の機会を提供
- ・花博終了後も、公園づくりに活躍する花緑ボランティアの育成
- ・スマート農業技術を公園の維持管理に活用

植物調達管理

基本方針

- ・ 修景計画に沿って、植物設計から植栽施工まで円滑に進められるような調達管理計画を検討

調達体制・調達方法

- ・ 使用する植物については、原則、県内花卉生産者で構成される生産者組織から調達
生産者組織が生産できない品目については、市場や専門ナーセリーから調達
- ・ コンテスト等に使用する植物については、原則、参加者が調達

調達時期

- ・ 植物の特性や植栽目的に応じて、納品時期を検討
- ・ バックヤード管理や植栽の進捗状況等を考慮し、搬入計画を作成
- ・ 早期養生が必要な植物については、令和4年度中に発注開始

修景スケジュール

	月	計画	基盤整備等	植物調達	植栽
令和4年	10	基本計画策定			
	11			早期発注	
	12		撤去工事		
	1~3		↓		
令和5年	4	実施計画策定	基盤整備	第1次発注	早期植栽
	5~8		↓	第2次発注	
	9		土壌改良		早期植栽
	10		↓		
	11				秋植栽
	12				↓
令和6年	1				
	2				
	3				春植栽

第3章

主催者企画事業

基本方針

3つの視点による事業展開

「デジタル技術の活用」、「新しい暮らしの創造」、「食・農・福祉の連携」

行政、地域、企業、団体、教育機関等との連携により、「デジタル技術の活用」、「新しい暮らしの創造」、「食・農・福祉の連携」の3つの視点に基づいた事業展開を図ることで、イノベーションを生み出す契機とする。

▶ 主催者実施事業

「多文化共生社会の実現」、「インクルーシブ社会の実現」、「地域とアートの共鳴」、「デジタル教育の促進」、「食の都づくり」をコンセプトに、誰もが参加でき楽しむことのできるプログラムを提供

▶ 企業協賛事業

県内外の企業の協力により、農業DX（デジタルトランスフォーメーション）の実装、スマートモビリティの体験、先端技術の展示・解説等、先端技術を体験・体感できる多彩なプログラムを提供

▶ 花緑への理解促進事業

花壇講習会及び花壇コンクール、ハンギングバスケット講習会及びハンギングバスケットコンクール等、講習会とコンクールの一体的実施や、花緑ボランティアの育成、花壇づくりを通じ、花緑への理解を深めるプログラムを提供

▶ 地域への理解醸成事業

ガストロノミーツーリズム、ガーデンツーリズム等、地域への理解を深めるプログラムを提供

3つの視点

デジタル技術の活用

新しい暮らしの創造

食・農・福祉の連携



行政、地域、企業、団体、教育機関等との連携

公式行事名称	開催日程 実施場所	概要
内覧会	4月5日（金） 浜名湖ガーデンパーク内	地元自治体、出展者（企業・団体）、マスコミ関係者等を招待し、内覧会を開催
開場セレモニー	4月6日（土） 北入場ゲート前	4月6日（土）9：00から北入場ゲート前にて開場セレモニーを開催 ・ウエルカム演奏 ・主催者挨拶 ・テープカット ほか
節日来場記念セレモニー	※開催期間中 入場ゲート会場側	10万人・30万人・50万人来場者を記念した節日来場記念セレモニーを開催 ・記念品の贈呈
閉会式	6月2日（日） 屋外ステージ	6月2日（日）15時から屋外ステージにて閉会式を開催 ・主催者挨拶 ・浜名湖花博2024記録映像放映 ほか

■ 主催者企画事業コンテンツ

区分	開催概要	実施場所
花関連コンテスト	花壇コンクール等の開催	国際庭園エリア ほか
デジタル関連イベント	体感型デジタルアートイベント	徳川園芸館 花の美術館IF
	ARデジタルスタンプラリー	園内
	バーチャル浜名湖ガーデンパーク (メタバース空間)	WEB
先端技術	企業の出展（展示・体験）	体験学習館 中央芝生広場
ワーケーション	ワーケーション体験スペース	里の家
集客イベント	遠州織物関連イベント	屋外ステージ
	SPAC舞台公演	屋外ステージ
	ジュニア・プロコン	屋外ステージ
	フラワーアレンジメントデモンストレーション	屋外ステージ
	パフォーマンスパレード	屋外ステージ 園内
食イベント・マルシェ	ガーデンカフェ	花の美術館 イベント広場 里の家
	ガーデンマルシェ（物販）	イベント広場
	「バイ・山の洲」マルシェ	イベント広場

デジタル関連イベント

▶ 体感型デジタルアートイベント

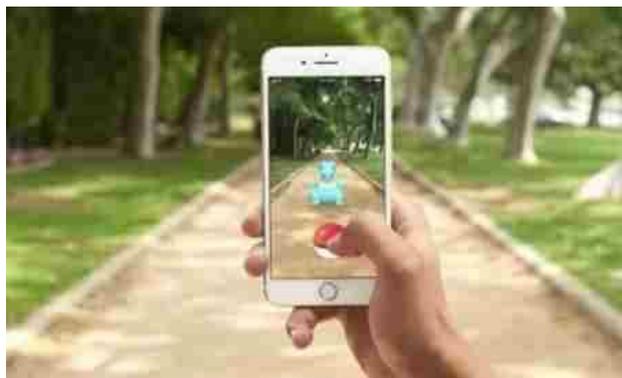
体感型デジタルアートイベント
(徳川園芸館) (花の美術館1階)



デジタルアートイベントイメージ

▶ デジタルスタンプラリー

デジタルスタンプラリー
チェックポイント
(10ポイント程度設定)



ARキャラクター撮影イメージ

▶ バーチャル浜名湖ガーデンパーク

メタバース空間



バーチャル浜名湖ガーデンパーク画面イメージ



ガーデンパーク内の花イメージ

先端技術

企業の出展（展示・体験）

最先端技術の展示・体験
（体験学習館1階）（中央芝生広場）



体験学習館外観写真

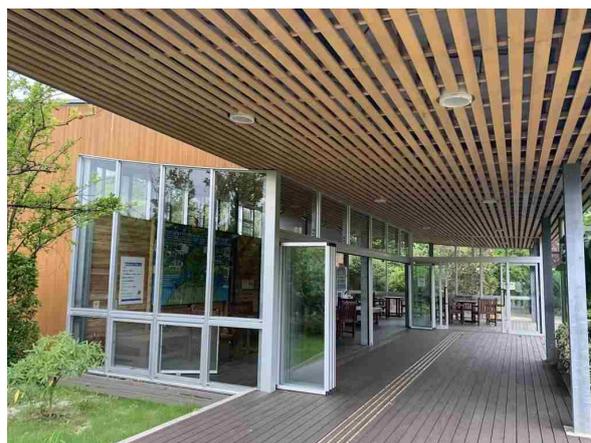


中央芝生広場写真

ワーケーション

ワーケーション体験スペース

ワーケーション体験スペース
（里の家）



「里の家」外観



※ワーケーション参考イメージ



集客イベント



遠州織物ファッションショー
SPAC舞台公演
ジュニア・プロコン
フラワーアレンジメントデモンストレーション
パフォーマンスパレード
(屋外ステージほか)

遠州織物関連イベント



遠州織物参考イメージ

SPAC（静岡県舞台芸術センター）舞台公演



© Ryota Atarashi

宮城 聡（みやぎ・さとし）
演出家
SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督



イメージ写真 撮影：平尾正志

SPAC公演参考イメージ：
『ちかくにあるとおく～鏡の国のアリスより～』

フラワーアレンジデモンストレーション



フラワーアーティスト：村松文彦氏



フローリスト集団：gram

食イベント・マルシェ

▶ ガーデンカフェ

- ・地産地消
- ・農福連携
- ・「ふじのくに食の都づくり仕事人」との連携
- ・モバイルオーダーシステムの導入



▶ 「バイ・山の洲」マルシェ

- ・中央日本4県（静岡県、山梨県、長野県、新潟県）連携によるマルシェの開催



「花の美術館入口前」



「イベント広場」

中央日本4県
niigata,nagano,yamanashi,shizuoka

「バイ・山の洲」マルシェ
(イベント広場)



県産材を活用した
椅子・テーブル
イメージ写真



「山の洲フェア」実施参考写真

モバイルオーダーシステム

お客さま利用フロー



「里の家」



モバイルオーダーシステムイメージ写真

※モバイルオーダーシステムと
現金決済での対応

第4章

運営計画

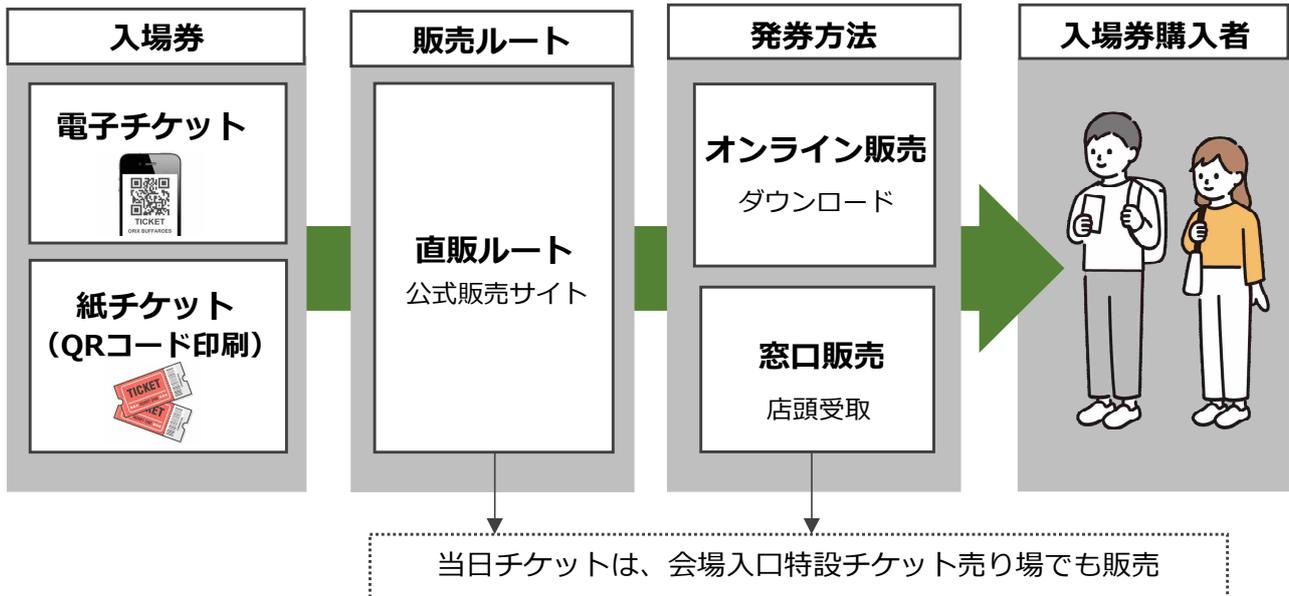
基本方針

ICTの活用による来場者サービスの提供、スタッフへの運営サポート体制の構築
リスクマネジメントによる安心・安全・快適な運営体制の構築
ボランティアスタッフに対する適切な業務環境の整備

県民参加	公園づくりやボランティア活動への参加を通じ、本事業の意義を理解していただくとともに、社会活動や生きがい、交流の場を創出
安心・安全・快適性	ICT等デジタル技術を活用し、誰もが安心・安全・快適に過ごすことのできる公園管理体制の構築
インクルーシブ	来場者やスタッフ等、多様なニーズや考え方に対応した運営方法の検討
警備・防犯・消防	<ul style="list-style-type: none"> ICT等デジタル技術を活用して、来場者予測や滞留状況、駐車場混雑状況等の情報を共有化できる体制の構築 ゲート管理、園内への危険物の持ち込みやテロ対策、災害の未然防止、災害発生時の消防・避難誘導等、あらゆるリスクを想定した計画の策定
医療・救護	傷病者等が発生した場合の対応、応急処置や救急搬送等の拠点整備
清掃・ごみ管理	来場者が園内で快適に過ごせるよう美化清掃の徹底、ごみの再利用、再資源化による環境負荷への低減
リスク管理	天候、災害、人災、感染症対策等、様々なリスクに対応するマニュアルの共有化
保険	来場者、事業従事者、出展者のリスク低減のため、損害賠償保険、イベント保険、リクリエーション保険、労働者災害保険等への加入

入場者管理

- ▶ 電子チケットの導入
電子チケットにより入場者管理の省力化を図るとともに、電子チケットの購入が難しい来場者用に、紙等の入場チケットの提供を行う。
- ▶ 入場券販売ルート
コスト、利便性の観点から、合理的な入場券販売ルートを採用する。



- ▶ 入場ゲート
来場者の入場を円滑に行えるよう入場ゲート設置数、認証方法、セキュリティ検査等を検討する。
認証方法はデジタル技術を活用し、入場ゲートでは十分なスペースを確保する。
- ▶ 関係者入場管理
業務スタッフ、ボランティアスタッフ、出展者等、関係者に対し、関係者IDパスの発行及び関係者入場ゲートの設置を行い、入場管理の効率化を図る。



入場ゲート認証システムイメージ

来場者サービス

来場者サービス施設

デジタル技術を用いたインフォメーション（案内所）、忘れ物・落とし物対応、迷子対応、車椅子の貸出、授乳室等の乳幼児向け設備、救護所、ペットの一時預かり所等
※盲導犬、介助犬の同伴入場は可

情報提供サービス

- ・ICTを活用した会場内の施設、駐車場等のリアルタイム情報の発信
- ・会場内に設置するデジタルサイネージ、SNS等を活用した情報の発信
- ・デジタル技術の活用による国・地域、文化、人種、性別、世代、障害の有無等、あらゆる来場者への情報提供

安全対策

会場警備計画

- ・確実性、効率性を重視したセキュリティ計画の検討
- ・入退場ゲート、陸路、海路からの侵入対策
- ・来場者予測調査や会場内滞留状況、人流シミュレーション、イベントにおける集客等、様々なデータに基づいた人員配置計画を策定
- ・警察との連携を図りながら、自主警備体制を確保

防災、消防、防犯計画

- ・自治体が定める地域防災計画やハザードマップ等を踏まえ、消防と連携を図りながら避難計画を策定
- ・消防活動や避難誘導體制の確保に当たっては、会場特性等を踏まえ計画を策定し、計画に基づき、自主消火活動や避難誘導等を円滑に行い、被害の最小限化に努めるとともに、来場者数や会場内滞留状況等、データの共有化を図る。

医療、救護計画

- ・けが人や病人が発生した場合の救急救護・搬送体制が迅速に行えるよう、救護所を設置
- ・熱中症対策、感染症対策、食中毒対策等を講じた施設（給水所、ドライミスト、手洗い所、消毒用アルコールの配置等）を整備
- ・園内における感染症予防の観点から、手指消毒や手洗い場、マスク着用協力案内等、感染症予防対策周知看板を設置
- ・地元消防本部、保健所の指導に基づき計画を策定し、会期中の救急・救護体制、連絡体制等をマニュアル化

ボランティア計画

▶ ボランティアセンターの設置

ボランティア募集及び活動を円滑に推進・展開するために「ボランティアセンター」を運営本部事務局内に設置

[ボランティアセンター]

- ・参加方法や活動に関する問合せ、希望活動の説明・マッチング、申込手続き補助、事前活動の参加受付
- ・名簿作成、ボランティア活動説明会の開催、オリエンテーションの実施、活動参加シフトの調整・管理、活動支援費の支払い、ユニフォーム管理等、ボランティア業務の管理運営

▶ ボランティアスタッフの募集

- ・活動内容に応じた方法を検討し、事業への幅広い参画・参加が可能となる仕組みを検討
- ・「浜名湖ガーデンパークフレンズ」にボランティア登録されている方々に対し、積極的な活動参加を要請
- ・活動ごとに必要な人数、期間中の活動参加日数を設定し、活動ごとに個別に募集

▶ ボランティアの活動区分

活動区分		活動内容	
		会期前	会期中
ボランティアセンター 運営補助	センター運営補助		<ul style="list-style-type: none"> ・センター運営、事務業務などの補助 ・繁忙ポストの応援等
会場サービス	案内サービス	<ul style="list-style-type: none"> ・説明会の参加 ・ボランティアセンターでの講習会参加 ・研修会参加 ・事前準備業務 	<ul style="list-style-type: none"> ・案内所業務補助 ・パンフレット配布 ・来場者のお出迎え ・迷子対応補助 ・介助サービス補助 ・乳幼児サービス補助等
	貸出サービス		・貸出所での受付対応
	通訳サービス		・手話、外国語対応
	巡回サービス		<ul style="list-style-type: none"> ・会場案内、巡回 ・環境美化活動補助
植物管理	植物維持管理		<ul style="list-style-type: none"> ・花ガラ摘み ・除草など
案内ガイド	ガイドツアー		<ul style="list-style-type: none"> ・園内ガイドツアー補助 ・展示ガイド等

第5章

情報通信計画

基本方針

情報通信技術（ICT）、情報通信サービスの効果的な活用

- ▶ 来場者の利便性、快適性の向上
入場券の購入や会場までの移動、会場内の案内等、ICTの活用により来場者の利便性、快適性の向上を図る。
- ▶ 会場運営の効率化と安全性の確保
会場案内、清掃、スタッフ管理、セキュリティ、防災等について、ICTの活用により会場運営の効率化と安全性の確保を図る。
- ▶ 多様な参加と得られたデータの社会還元
・バーチャル会場への参加等、ICTを活用し、多様な参加形態を提供
・「浜名湖花博2024」への参加体験を通じて生まれた成果、情報等をビッグデータとして適切に管理し、得られた知見を社会に還元し、「浜名湖花博2024」のレガシーとして未来へ継承
- ▶ セキュリティの確保
情報セキュリティを確保し、安全で安心な運営を実現するため、取り扱う情報について、利用や管理方針を示したセキュリティガイドラインを定め、情報を取扱うすべての関係者（出展者やサービス提供者含む）の遵守を図る。

リアルタイム配信

園内や駐車場、シャトル乗り場、更に園内施設やエリア等の混雑状況配信を行うことにより、来場者の利便性や快適性の向上を図る。

改善 **機会ロス軽減**

1

空いている時間を確認して安心して来園することが可能

改善 **人流抑制**

2

混雑時の施設やエリア等の利用抑制、密集の制御

改善 **情報発信・PR**

3

情報発信への寄与、来場の動機付け

公式サイト・公式SNS開設



園内MAP

GPSと連動し、目的エリアへのルート案内

サインージ連動

エリア内の花の解説表示、音声ガイド

混雑状況

施設の混雑状況や待ち時間を表示

イベント情報

ステージ、イベント、体験等開催時間等の案内

チケット購入

電子チケット購入・決済

第6章

輸送計画

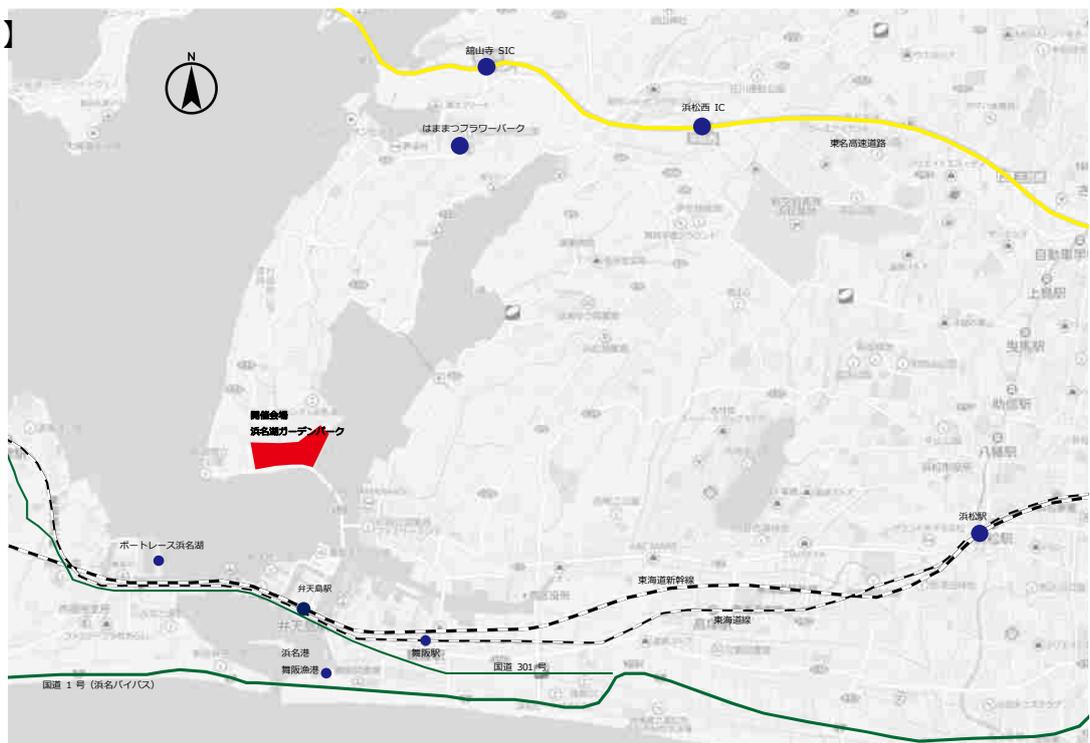


基本方針

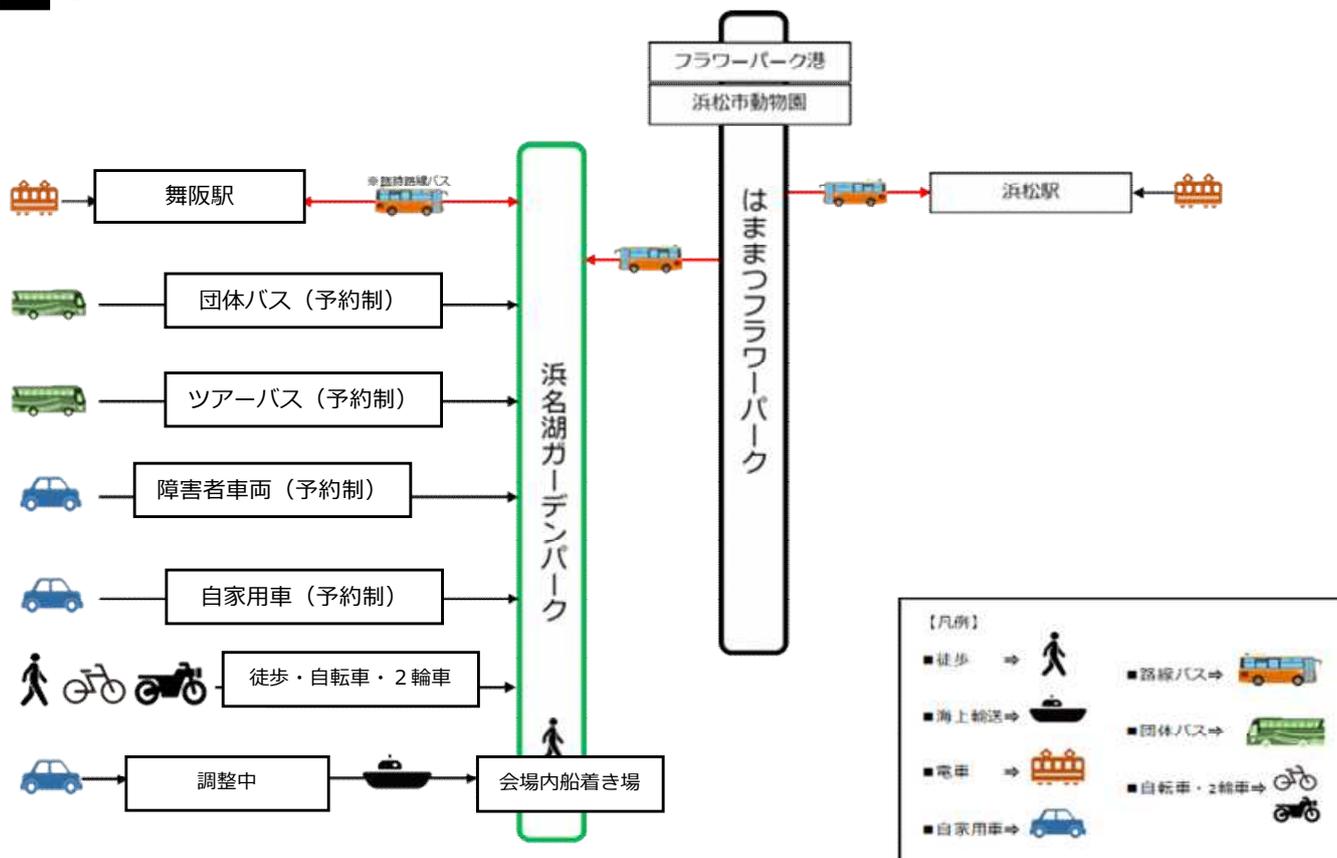
鉄道、道路、海路が利用可能な浜名湖周辺の立地を生かした
多様なアクセスを来場者に提供

区分	アクセス方法等
鉄道	[主要拠点] ・JR東海道新幹線 浜松駅 ・JR東海道線 浜松駅、舞阪駅、弁天島駅
道路	[自家用車] ・会場駐車場 ・パークアンドライド（場外駐車場＋海路、バス等） [主要道路] ・国道1号（浜名バイパス） ・国道301号 ・東名高速道路 舘山寺スマートIC、浜松西IC [会場駐車場] ・障害者専用駐車場 ・シャトルバス、パークアンドライドバス乗降場 ・タクシー乗降場
海路	[航路（要検討）] ・浜名湖ガーデンパーク⇔弁天島⇔湖西市周辺 ・浜名湖ガーデンパーク⇔浜名湖SA ※地元関係者との連携
輸送アクセス	・会場周辺の交通特性を踏まえ、来場者の利便性と地域の生活環境に配慮した輸送アクセス体系の構築 ・シャトルバスの定時性の向上やチケット制度と連動した来場者の平準化のため、交通マネジメントやICT を活用した円滑な輸送対策の検討

【各拠点位置図】



会場輸送コンテンツ



各拠点の運営状況

拠点	用途	平日	土曜日	日・祝日	ゴールデンウィーク (4/27~5/6)
		34日	7日	7日	10日
浜松駅	路線バス	○	○	○	○
舞阪駅	臨時路線バス		○	○	○
団体バス	会場内駐車場	○	○	○	○
ツアーバス	会場内駐車場	○	○	○	○
障害者車両	会場内駐車場	○	○	○	○
タクシー乗降場	会場内駐車場	○	○	○	○
一般車両 (自家用車)	会場内駐車場 北駐車場	○	○	○	○
一般車両 (自家用車)	会場内駐車場 西駐車場	○	▲	▲	○
自転車・2輪車	会場内駐輪場	○	○	○	○
調整中	海上輸送		○	○	○

(凡例) ○ ⇒ 運営・稼働 ・ ▲ ⇒ 入場券販売状況・時期等により運営可否を判断

駐車場計画

- ▶ 会場内駐車場計画
 - ・ 住民、一般交通への影響の低減化
 - ・ 歩車分離の徹底
 - ・ 大型車両・乗用車の動線分離
 - ・ 緊急車両動線・要人（VIP）動線の確保
- ▶ 浜名湖ガーデンパークのアクセス導線

※駐車場利用計画はイメージ



浜名湖ガーデンパーク内船着き場



【凡例】

- ・ 団体バス
- ・ シャトルバス&タクシー
- ・ 路線バス
- ・ 乗用車
- ・ 関係者車両
- ・ 歩行者
- ・ バイク&自転車

※歩行者の横断地点には「安全対策」と連携し、警備員を配置

※各車両の取り込み地点（出入り口）に警備員を配置

※来場者（歩行者）の誘導、分岐地点にボランティア等を配置

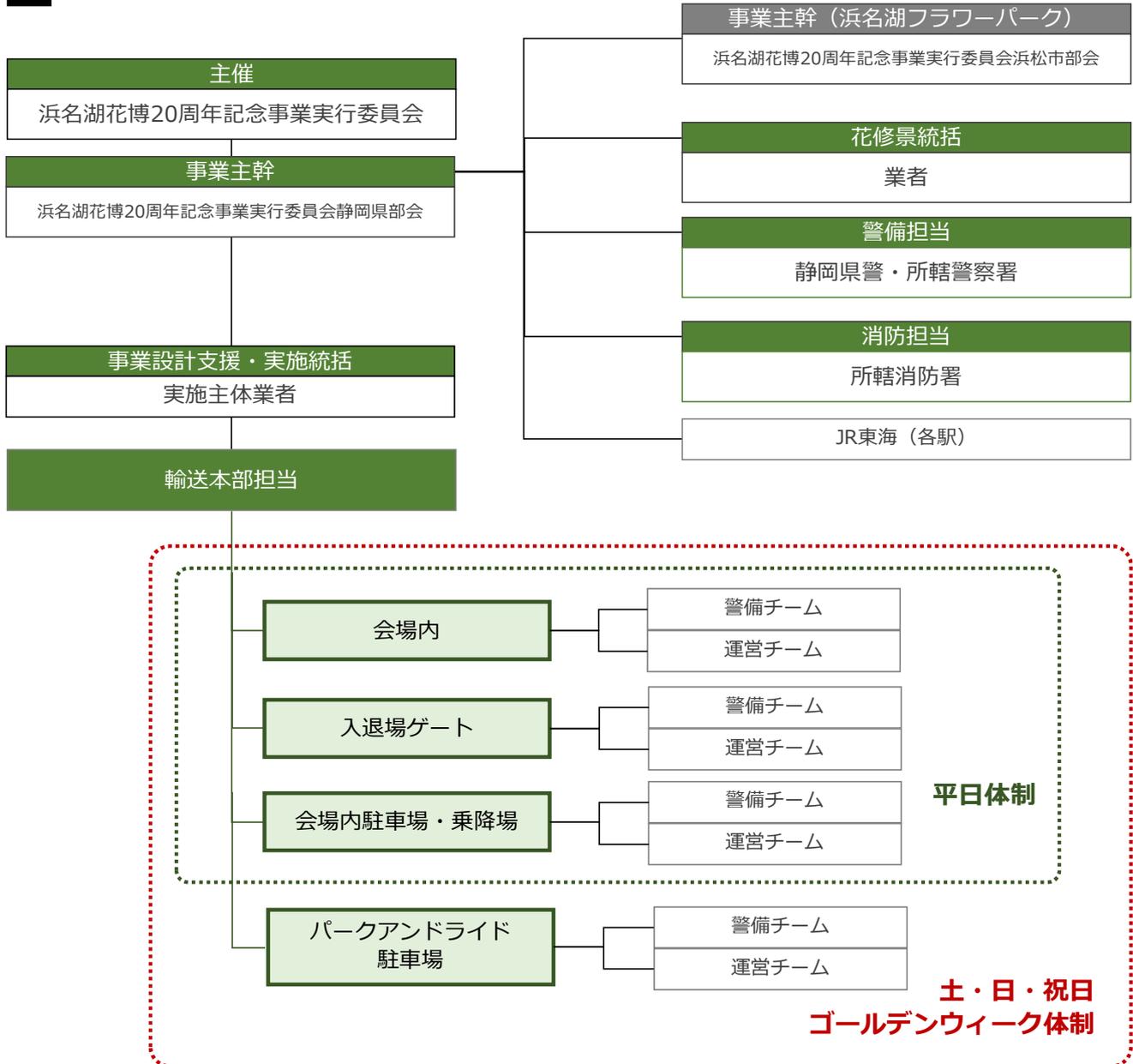
※車両・歩行者への誘導案内サインや資機材を効果的に配置

交通誘導計画

交通誘導計画

- ・会場周辺及びパークアンドライド実施箇所において、「来場者の安全かつ円滑な誘導」、「一般交通、地域住民への影響の低減化」を図るため、計画を策定
- ・来場予測、入場券販売状況に合わせ、「onピーク」と「offピーク」に応じた体制を確保
- ・交通誘導計画の策定に当たっては、「動線計画」「駐車場計画」「シャトルバス等乗降場計画」「警備計画」「運営計画」「サイン計画」等、他の計画との整合性を図る

実施体制



Ⅲ

はままつフラワーパーク事業計画



マスコットキャラクター「ふらまる」

浜名湖花博を機に広く周知され、
浜松のシンボルとなったフラワーパーク

浜松市は1970年に「はままつフラワーパーク」を設立し、2020年には開園50周年を迎えた。これまでフラワーパークは来場者に、花や緑を通じて心の豊かさや安らぎをもたらす園として長く親しまれてきた。また、浜名湖地域の観光や文化の拠点となり、地域の活性化に寄与してきた。

50年にわたる歴史のなかで、「浜名湖花博」の開催は、園の整備やフラワーパークの周知を図る契機となった事業である。2004年には花博のサテライト会場としてエントランス棟などの大規模な改修工事を行い、2014年の花博10周年では新しいスタイルの花壇・スマイルガーデンの整備や話題作りを行うことで、主会場のひとつとして期間中の来場者60万人を達成。浜名湖ガーデンパーク会場と合わせ、当初の目標を大きく上回る成果をあげた。

また、花博10周年を機に、翌年からは「日本の春は浜名湖から」をキャッチフレーズに、「浜名湖花フェスタ」がスタート。2019年には、国のガーデンツーリズムに登録された「アメイジングガーデン浜名湖」も始まり、「圧倒的な美しさ」を前面に打ち出したフラワーパークは全国的にも注目され、浜名湖周辺の観光の中心として成長した。

今回の「浜名湖花博2024」開催は、テクノロジーが進化し、生活スタイルが多様化する中、フラワーパークにおいても時代に即した新たな転換、進化が期待されている。本市の緑の基本計画で掲げる「みどりによって持続的に発展するまち・浜松 みどり生活を愉しみ、暮らしもまちも豊かな浜松へ」を具現化する施設となることを目指す。そして、来場者はもとより、すべての人たちが花みどりのすばらしさを体感、また、享受できる新しい施設へと進化する機会と考える。



第1章

会場計画

はままつフラワーパーク会場テーマ

花と緑の明日を実感
～花と緑とテクノロジーが織りなす理想空間～

はままつフラワーパーク会場でのリアルな美しさを高め、先端技術を用いることにより、花と緑をこれまで以上に美しく魅せていく。

多くの来場者が花と緑とテクノロジーが織りなす空間を体感し、理想のフラワー空間で驚きと感動を実感する、世代を超えた交流と新たな楽しみ方の提案を行う。

目指す方向と取組

圧倒的な美しさの追求と
時代に即した新たな展開をスタート

1970年の開園以来、フラワーパークは圧倒的な美しさでリアルに花を体感する園として充実を図ることにより、浜松市民の憩いの場として、また国内外の方々にも利用される観光スポット、レジャー施設として周知されるよう、整備に取り組んできた。塚本理事長就任後の花博10周年事業以降は、「世界一美しい桜とチューリップの庭園」を掲げ、庭園の管理と魅力の創出に努め、国内でも有数の美しさを体現している。

ここ近年、デジタルテクノロジーの進歩により、人々の暮らしや価値観、そして社会のありようさえも大きく変わろうとしている。生活がデジタル化されることで、データを活用したサービスが普及し、場所や時間を越えて高品質のサービスが提供されるようになってきた。例えば、個人の行動・思考を察し、目的地への道順や好みに応じたレストランやカフェが推奨されたり、観光情報などの情報が最適なタイミングで目の前の空間に表示されたり、その場に居合わせない世界中の友人と空間を共有し、貴重な体験を分かち合うことなども可能になってきている。

エンターテインメントの分野において、全国の植物園の施設運営は、最新技術を導入して新たな演出やサービスの提供を展開している音楽イベント、スポーツイベントと比べると、デジタル技術の活用が進んでいないのが現状である。そこで、浜名湖花博2024を機に、新たな時代に即した園づくりを地域のみなさまと連携しながら取り組んでいく。

〈取り組み〉

- ▶ 心の豊かさを体感
 - ・花と緑の圧倒的な美しさの充実を図る。
 - ・花と緑の新たな魅力の創出に努めていく。
 - ・デジタル技術を導入して、花と緑の新たな楽しみ方を企画する。
- ▶ 持続可能性を体感
 - ・園内の美観、清潔感の徹底・管理の継続に努める。
 - ・園内の快適性向上のためのUD化を検討する。
 - ・地域と連携して、観光促進、産業振興、学習機会の提供などを図る。
- ▶ 産業革新を体感
 - ・先端技術のショーケースなど、産業革新を体感できる場作りを目指す。

基本方針

はままつフラワerverパークは、これまで花みどりの圧倒的な美しさとで来場者に感動と安らぎを提供してきた。浜名湖花博2024においても、桜とチューリップの競演に始まり、フジ、菖蒲、バラと次々に表情を変える花の移ろいを楽しめるよう、整備を検討する。さらに、新感覚の花壇の披露やインパクトあるエントランスのリニューアルなどを検討し、来場者をもてなす新たな楽しみ方、快適な環境作りを目指す。

エントランスエリア

来場者を迎える主要な玄関口で、第一印象で園内の美観、清潔感を伝えるエリア。新たにシンボル展示の整備を目指す。

高台エリア

大温室や大型モザイカルチャー、ローズガーデンなど花と緑の新たな魅力を創出するエリア。誰もが快適に利用できる園を目指し、エレベーターやスロープカーも整備済み。花壇のリニューアルを目指す。

噴水エリア

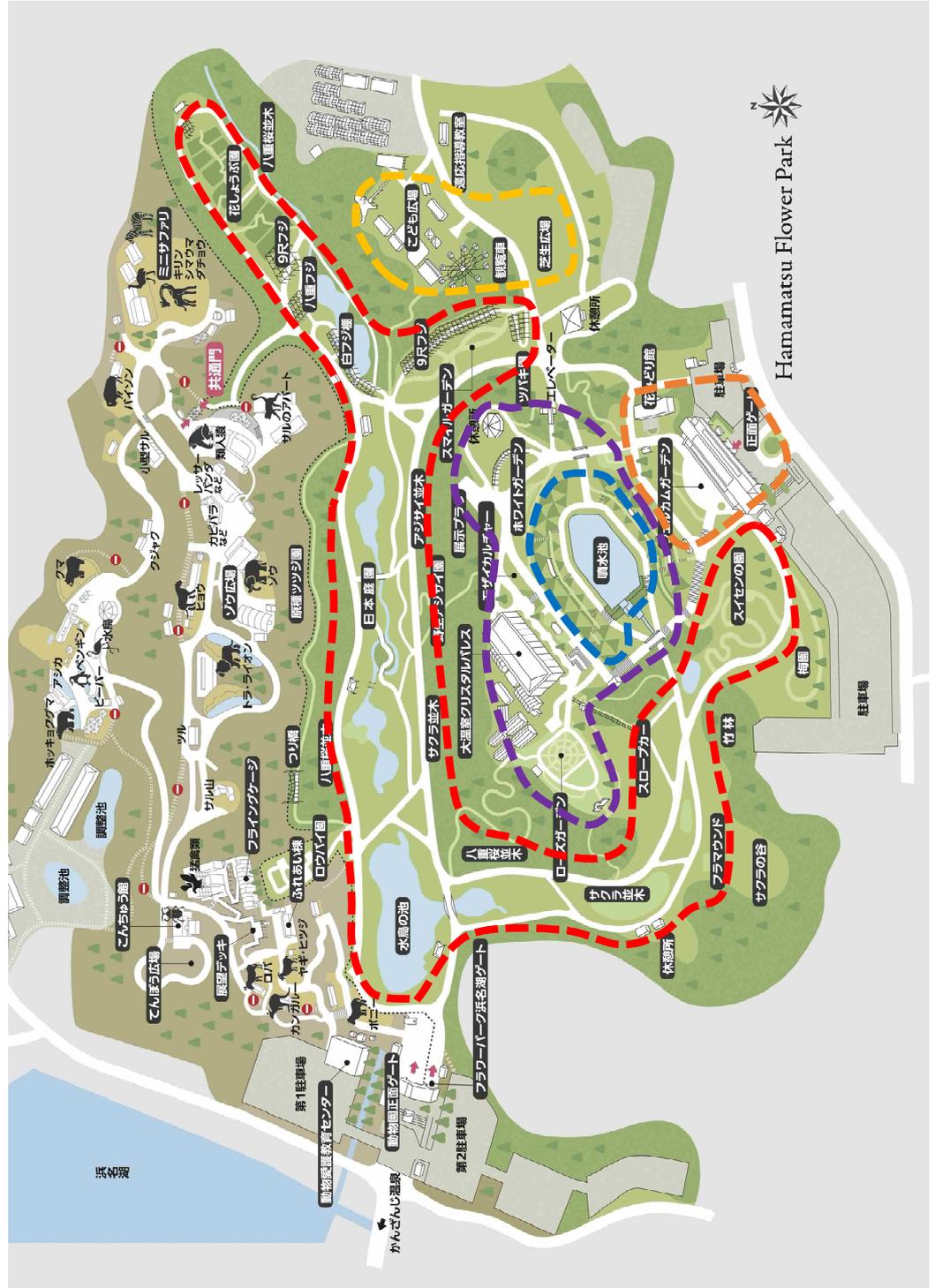
リニューアルされた大噴水ショーや噴水を囲む三角花壇が整備されたエリア。

外周エリア

世界一美しい『桜とチューリップの庭園』やスマイルガーデン、フジ棚など花と緑の圧倒的な美しさで心の豊かさを体感できるエリア。メインとなる新たな花壇の整備を目指す。

子ども広場・芝生広場

観覧車や遊具のほか、蒸気機関車の展示もあり、小さなお子さんとも一緒に楽しめるエリア。



エリア	庭園・施設名称	展示・施設概要
園内一円	世界一美しい『桜とチューリップの庭園』	桜1300本とチューリップ50万球の競演。3月下旬頃、約700本のソメイヨシノやヤマザクラ・シダレザクラが開花。4月中旬頃には、約130品種600本の八重桜が見頃。桜の見頃に合わせ夜間開園も実施。夜桜のライトアップや大温室「クリスタルパレス」も開館。 
スエントリア	ウェルカムガーデン *新整備	来場者を迎える主要な玄関口にふさわしい、新たな「ウェルカムガーデン」。インパクトと美しさを兼ね備えたシンボル展示を検討。
	花みどり館	2階/行催事、シンポジウム、体験教室の開催 1階/休憩所、カフェコーナー
高台エリア	ホワイトガーデン	白を基調にした庭木仕立て藤、盆栽仕立ての藤、藤のトンネルを囲むように白い草花が植えられ、眩しいほど輝く白の世界を演出している。
	虹のフジのトンネル	わくわくしながらくぐり抜けるアーチ形の藤棚。白藤、藤色とまるで虹のように変化し、フジの甘い香りの変化も楽しめる。
	花壇整備 *新整備	花壇のリニューアルを検討する。
	モザイカルチャー 【森の仲間たち】	「浜松モザイカルチャー世界博2009」の開催から10年経ち、フラワーパーク開園50周年という節目にあわせ大型モザイカルチャー【森の仲間たち】が2020年に完成。日本在来種を想定してデザインされた野生動物や、昆虫の全7体を展示。 
	大温室 クリスタルパレス	熱帯植物を含む600種類の花緑を展示したガラスの大温室。温室内中央部ガーデンシアターでは季節ごとにテーマを変え、趣向を凝らした展示を実施。コンサートなどのイベントも開催。 
	ローズガーデン	バラの育種家である河合伸志氏監修のもと、2021年にリニューアル。“音楽の都・浜松”にちなみ、音楽関連の名前の品種を多く収集。宿根草などを混植した庭は【花束】をイメージし、主役であるバラを引き立てるデザイン。 
噴水エリア	噴水池	50周年を記念しリニューアル。鈴木豊乃氏作曲の音楽にあわせて水が踊るような「大噴水ショー」が毎時00分と30分に開催。夜間開園時はライトアップされた噴水ショーを実施。水と音と光のコラボレーションが楽しめる。 
	三角花壇	フラワーパークの顔となっている噴水を囲む花壇。メモリアルに合わせ変化するデザインも楽しみのひとつ。

エリア	庭園・施設名称	展示・施設概要
外周エリア	スマイルガーデン	日本を代表するガーデンデザイナー吉谷桂子氏が手がけるダブルボーダーイングリッシュガーデン。 
	フジ棚	全長80m・15m幅の長藤棚をはじめ、全長75m・幅10mの白藤棚、葡萄の房のような八重黒龍藤など時期をずらしながら、様々な藤が楽しめる。夜間ライトアップで幻想的な世界を演出する。 
	ハナショウブ園	周りを深い緑の森に囲まれた素晴らしい環境が魅力。4,750㎡という日本有数の面積を誇り、70万本が咲き誇る。オリジナル品種「浜名湖の光」は黄色い花色で、紫や青、白色の中でも輝きを放つ。 
	日本庭園	水のせせらぎと緑の芝生、四季の植物に彩られる憩いの広場。
	アジサイ並木／野生アジサイ園	長さ600mのアジサイ並木では3000株のアジサイが、また野生アジサイ園では日本各地に自生する500株のヤマアジサイ、ガクアジサイなどが楽しめる。 
	原種ツツジ園	日本全国に自生する原種ツツジ約50種15,000本が咲く。
	水鳥の池	ハナハスが覆うように咲き誇る。
	花壇整備 *新整備	花壇の新設を計画する。
	梅園	110品種300本の梅園にはスイセンの花畑が広がる。
芝生広場・こども広場	こども広場	観覧車や遊具のほか、蒸気機関車D51も展示。
	芝生広場	レジャーシートを広げてお弁当も楽しめるエリア。
ユニバーサルデザイン対策	エレベーター	高低差のあるエントランスから噴水池への行き来も便利に園内をお楽しみいただける。
	スロープカー	2020年3月に完成。高低差20mを楽に移動できるため、大温室から浜名湖ゲートへ向かう際など、車椅子やベビーカーでお越しの方にも便利に園内をお楽しみいただける。
	フラワートレイン	ガイドさんの丁寧な説明を聞きながら園内を1周する。
	各種貸出	高齢者や障がい者など、移動が難しい方の補助車両として貸出する。

第2章

花修景計画

基本方針

これまで整備してきた各エリアの充実を図るとともに、浜名湖花博2024では外周エリア、高台エリア、エントランスエリアを整備することで、新たな花みどりの魅力の創出を図っていく。

自然回帰をテーマにした一歩先に行く新感覚のモデル庭園のお披露目や野原のようなナチュラルな花壇へのリニューアルなどを検討する。エントランスにはインパクトある花のオブジェの設置などを検討し、花博ムードの醸成を図る。

実施内容

▶ 外周西側エリア（下図A）

自然の美に包まれる「没入体験型の庭」を新設することにより、花博2024の主力展示を目指す。ライトアップの導入、絵になるモニュメントやガーデンファニチャーを取り入れるなどの演出により、「映え」の眺めを構成することで、話題づくり、情報発信を図る。また、持続可能な庭づくりの検討も行う。

▶ 高台エリア（下図B）

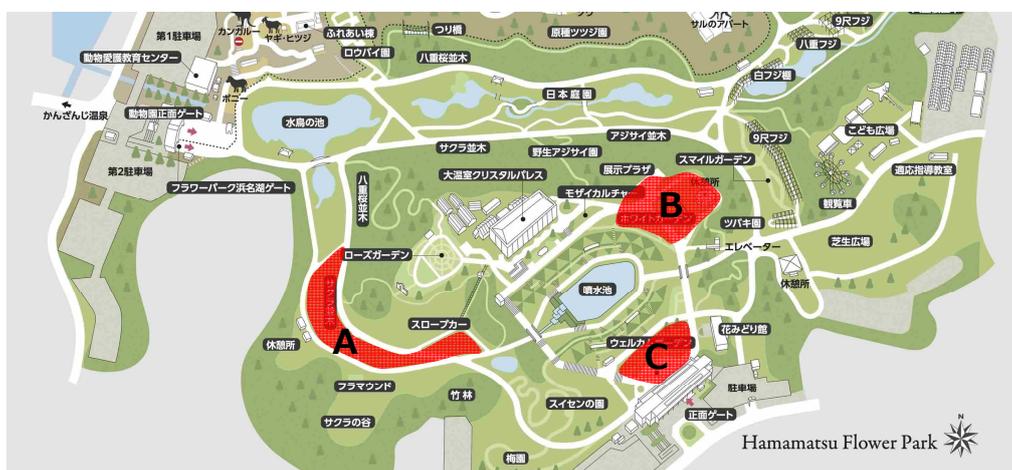
・花壇のリニューアル

グラスと宿根草、球根がメインの野原のようなサステナブルガーデンを検討。かん水や肥料をほとんど必要とせず、年々育っていく持続性の高いガーデンとして展開し、持続可能な公園づくりを目指す。蝶や蜜蜂などの生き物が好む草花も多く入れ、植物相豊かな生物多様性ガーデンを目指す。

▶ エントランスエリア（下図C）

インパクトと美しさを兼ね備えたシンボル展示により、エントランスエリアで第一印象を高める演出を検討する。

写真撮影スポットとして来場者に楽しんでもらい、SNSなどで発信されるような印象度の高いウェルカムガーデンの展開を目指す。



第3章

主催者企画事業

基本方針

浜松市は、静岡県の基本方針を踏まえ、浜松市が推進する「音楽の都・浜松」や「多文化共生都市・浜松」、「はままつイノベーション構想」などにつながる事業、また、はままつフラワーパークが例年行っている、花みどりの専門知識を有する人材を活用した質の高い講座、子どもや家族づれが手軽に楽しめる花みどりの入門的な参加・体験型プログラム、コンサートやダンスなどの市民ステージイベントなど、子どもから大人まで誰もが楽しめる企画を検討する。

デジタルやカーボンニュートラルなどの先端技術の披露・実証の場、地域花卉産業の紹介の場を目指し、連携を図っていく。また、デジタルコンテンツを活用した音と光の夜間演出を計画し、多くの夜間集客を目指す。

さらに、花みどりの社会的効果や役割に着目した園芸福祉関連イベント、浜松市動物園と連携した事業展開も検討する。

▶ 花みどり講座・シンポジウム

全国的な視点に立ったシンポジウムや園芸著名人の講演会などにより、静岡県・浜松市の緑化活動の現況の周知を図り、今後の方向性などについて検討する。

▶ 花みどり体験教室

屋内外の講習会や体験教室、ワークショップや散策会などの実施により、花みどりにふれる機会の提供と発信を検討する。

▶ 各種コンテスト

- ・コンテナガーデンコンテスト
- ・親子ミニガーデンコンテスト
- ・フォトコンテスト
- ・Instagramフォトコンテスト
- ・写生大会

▶ ステージイベント

・ウッドデッキステージやフラ・マウンドなど、既存のステージを活用し、文化芸術の発信と交流の拡大を図る。

・注目度の高いアーティストや、音楽の都・浜松にふさわしい音楽と花みどりとのコラボレーションによるステージイベントで誘客を図る。

▶ 公式行事

- ・開会式

オープニングを飾る公式行事として、招待者を対象に開会式典を実施し、開催主旨の理解を図るとともに、オープニングに対する期待感の醸成を図る。

- ・来場記念イベント

5万人、10万人といった、節目来場にあわせてセレモニーを開催し、メディアを通じて広く発信。節目の来場となった方々への記念品贈呈も検討する。

▶ 地域振興

- ・浜松の食材を使ったメニューや商品づくりを検討。地域の魅力の発信を図る。
- ・先端技術を活用した夜間の演出、空間の演出などを検討。新たな魅力創出を図る。
- ・先端技術を持つ企業と連携し、イベントなどを検討。地域産業の情報発信を図る。

▶ 来場者促進策

- ・電子チケットの案内を積極的に行い、販売効率を高める。
- ・浜松駅での積極的な広報宣伝を検討する。
- ・浜松市動物園と連携し来場者の相乗効果を図る。
- ・大河ドラマ館と連携したチケット販売を検討する。
- ・他市教育委員会へ修学旅行候補地としての斡旋を図る。
- ・子どもたちへの招待券贈呈を検討する。
- ・企業参加や市民グループなど、団体で参加する主催者イベント企画を検討する。

▶ 広報宣伝

浜名湖花博2024の全体広報については、浜松市と県が共同で企画する広報宣伝計画（制作物、スケジュールなど）に従い展開を図る。また、浜松市が主催者となって計画する事業に関する広報宣伝は、浜松市が次の事項などを必要に応じて検討する。

- ・公式サイト、公式メディアなどでの積極的広報

浜松市及びはままつフラワーパークの公式HPやSNSの活用を検討する。

浜松市が展開しているメディア（庁舎モニター）、ラジオ番組などの活用を検討する。広報はままつでの特別編集などの企画を検討する。また、やらまいか大使を活用した、花博2024の魅力発信を検討する。

- ・事業関連団体・企業との連携

浜松商工会議所や浜松・浜名湖ツーリズムビューロー、浜名湖かんざんじ温泉観光協会をはじめとする周辺観光協会などと連携して、各機関・団体が持つサイトやメディアでの情報発信の協力を図る。

- ・デジタル映像の活用

デジタルを活用したPR動画の作成などにより、さまざまなコンテンツによる展開を検討する。

- ・公共施設での広報物の掲示

学校、図書館、市民サービスセンターなどへ広報物の掲示依頼を検討する。

- ・大河ドラマ館と連携して花博をPR

大河ドラマ館に広報物を設置して、来場者に花博2024開催のPRを図る。

- ・イベントのライブ配信

来場できない方向けに、会場で実施するイベントなどのライブ配信を検討する。

- ・新聞、テレビ、ラジオなどのマスメディアとタイアップ

マスメディアとタイアップして特別編集、特別番組制作などの実施を検討する。

▶ 市民参加計画

はままつフラワーパークは花みどりを鑑賞することで、憩い・安らぎ・癒しを享受できる園であると同時に、市民のみなさまの日頃の文化活動の発表や学習の場として集う施設でもある。

浜名湖花博2024においては、県が示すデジタル田園都市をイメージする、先端技術と花みどりあふれる環境が融合する実証実験の場にすることや、先端技術・デジタル技術・近未来の商品やサービスなどを展示する場と考えるものである。また、浜松商工会議所や地元企業との連携により、企業やスタートアップ事業の市民へのアピールの場として活用されるよう計画をすすめていく。

さらに、地域の産業・観光振興およびシティプロモーション事業、学校で実施する行事や活動などと連携することで、浜名湖エリア全体の集客、にぎわいの創出、宿泊の増加を図るものである。市民参加型、地域連携により「オール浜松」で花博2024を盛り上げる計画をすすめていく。

- ・市民参加型ステージ
地元ダンスチーム、サークル、クラブ活動などの披露、学校などの発表の場とする。
- ・体験教室
園芸講座や園での撮影会など、プロ・アマが市民に教える体験型の各種教室を検討する。
- ・展示
園の花みどりを題材とした写真、写生、俳句などの展示を検討する。

▶ 民間企業との連携

- ・芝生広場やエントランス周辺を中心に、民間企業と連携した催しを検討する。
- ・先端技術を持つ企業と連携する展示などの企画により、産業振興を図る。
- ・スタートアップ企業の実証実験の場として本会場を利用してもらうことにより、自然×テクノロジーの融合と地域産業の振興を図っていく。県の基本方針を踏まえ浜松市が掲げる事業テーマと連動する企業および製品、サービスの展示や紹介、体験などの実施を検討。3つのテーマ（先端技術で誘客拡大、未来技術のショーケース、製品・サービスのPR）による募集を検討する。
- ・飲食物産展（花みどり含む）ブースへの参画を募集し、地域振興の発信を目指す。

▶ 観光団体、旅行会社などとの連携

浜名湖花フェスタなど既存のキャンペーンと連携することにより、拠点となる2会場との周遊性と相乗効果を高め、浜名湖エリア全体の振興につなげる。

- ・浜松・浜名湖ツーリズムビューローや各観光協会との連携により、キャンペーン企画の設定など相互&総合PRを検討する。
- ・旅行会社との企業連携により、花の愛好者ツアーや最先端技術見学・体験ツアーなどの実施を検討する。
- ・夜間イベントの実施に合わせた旅行商品開発のための情報提供、PRを検討する。

▶ 社会・教育機関などとの連携

市内の学校や生涯学習施設などとの連携によるイベントの開催を検討。地域全体を盛り上げ、発信を目指す。

第4章

運営計画

基本方針

花博期間中の会場運営にあたっては、浜松市花みどり振興財団による通常の管理・運営を前提とするが、本事業に伴い開催する特別事業などについては、浜松市及び浜松市花みどり振興財団の管理のもと、事業を主催する関係団体、事業者、協力者などに管理・運営を委託する。また、来場者の安全性や快適性に配慮したサービスなどを充実するために、フラワーパークファンで組織されたボランティアや市民などの協力の積極的な受け入れを検討する。

▶ 運営の基本体制

浜名湖花博2024「はままつフラワーパーク会場」運営本部の設置など、事業の運営に合わせて体制を整える。

▶ 開園時間

通常の開園時間、9:00～17:00（最終入園は16:30）を基本とする。

▶ 夜間ライトアップ・早朝開放などの特別開園

ライトアップされた花々の美しさを楽しむ夜間開園、澄んだ空気と静けさを楽しむ早朝開園などの実施を検討する。宿泊につながる観光商品として位置づけることも検討する。

第5章

輸送計画

基本方針

はままつフラワーパークへの来場に関しては、集中的に増大する交通量による、周辺環境への影響を考慮した動線設定・車両誘導を検討する。公共交通機関の積極的な利用促進を図るとともに、駐車場は原則として臨時駐車場を含めた従来の駐車場の活用による対応を検討する。なお、会期中の繁忙日の車両集中時に対応するため、新たに会場近隣への臨時駐車場を確保し、パーク&ライドでの運用実施について検討する。

また、はままつフラワーパークと浜名湖ガーデンパークの会場間及びはままつフラワーパーク会場からJR浜松駅周辺へのアクセスに関する輸送計画を検討する。

▶ 駐車場計画

一般車の来場が多数を占めることが予想されるため、来場者対策として臨時駐車場の確保を計画する。

臨時駐車場は、現在も利用されている平和清掃処分場の確保を計画する。またGW時期といった特異の繁忙日には、東名高速道路館山寺SIC周辺の臨時駐車場の確保による、パーク&ライド方式での来場を検討する。

▶ 交通誘導

会場へ安全でスムーズな誘導を図るため、主要なアプローチ道路に交通誘導サインの設置を検討する。また周辺エリアへの誘導案内を検討する。

▶ 公共交通機関

来場者の利便性を考慮し、土日限定での臨時便の運行の実施について、事業者との調整を検討する。

▶ 警備計画

駐車場計画に基づき、既存駐車場に加え、臨時駐車場やパーク&ライド運用の警備計画の策定を検討する。

▶ 他施設や所管などとの情報共有

はままつフラワーパーク周辺には、隣接する浜松市動物園や館山寺温泉エリア、いちご狩り園など多くの観光施設が存在することから、輸送計画を共有し周辺にも配慮した運営を目指す。また実施計画策定にあたっては、浜松西警察署や道路管理者とも調整を計画する。

第6章

事業推進計画

時期		進行内容									
2022年	10月	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; text-align: center;"> 実施計画 検討～策定・設計 </div>									
	11月										
	12月										
2023年	1月										
	2月										
	3月										
	4月										
	5月		↑	↑	↑	↑					
	6月		↑	↑	↑	↑					
	7月		↑	↑	↑	↑					
	8月		↑	↑	↑	↑					
	9月		↑	↑	↑	↑					
	10月		↑	↑	↑	↑					
	11月		↑	↑	↑	↑					
2024年	1月										
	2月										
	3月										
	4月	<div style="border: 1px solid black; padding: 20px; text-align: center;"> 実施運営 会期3/23～6/16 (86日間) </div>									
	5月										
	6月										
	7月										